

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H Journal

- to communicate and convey the message of Shiga's traditional principles of M・O・H -

49号
2015
Autumn

特集:暮らしやすさって? 「住」



「Heimatlos(故郷喪失)」(h 250 cm)

photo : Koji Tsujimura

これが完成した時、私に起こった感情は、故郷喪失でした。とはいえ、私の表現したその痛みが何によって生じたのかは、定かではありません。原発事故、辺野古の海、頻発する民族・宗教紛争、そこから遡りホロコーストの歴史、あるいはそれに関連して存在の故郷を求めたハイデガーの思想に内包されたナチス問題と、思い当たる節がありすぎるのです。

●森佳三 MORI Keizo

1988年多摩美術大学卒業。1997年フィレンツェ国立美術学院にイタリア政府給費を得て留学。2012年千葉大学社会文化科学研究科博士課程修了、同大学より学術博士取得。2009年第10回桜の森彫刻コンクール優秀賞。2013年神戸ビエンナーレ2013奨励賞。



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割 ★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためM・O・H通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | |
|---|----------|---|
| M | → もったいない | 循環
他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → おかげさま | 共生
人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → ほどほどに | 抑制
欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |



contents

目次

M・O・H巻頭言

「衣・食・住」は「地産地消」の原点だ 森 建司 …… 4

M・O・Hな店 (PolarSta)

二人の作家が手掛ける古民家ギャラリー 富金原 塊・中根 嶺 …… 5

特集:暮らしやすさって? 「住」

① M・O・H対談 (琵琶湖汽船)

広域的な視点からみえてくる滋賀の良さを再発掘する

川戸 良幸 & 森 建司 …… 11

② M・O・H座談会

地産地消の家でエコ生活

宮村 太・岸本 雄亮・村上 悟・水島 左知子・オノ ミユキ …… 18

③ M・O・Hインタビュー (マンマ・ミーア)

季節の風を感じる里山でみつけた表現の場

川端 健夫・川端 美愛 …… 27

寄稿

しがのええもん五十三次～木編～

「しがのええもん五十三次」勝手に選定委員会 …… 36

M・O・Hインタビュー

会社人間から社会人間へポートビルから温故創新 寺本 佐利 …… 43

寄稿

コミュニティ難民 アサダ ワタル …… 49

里のお話

とち餅 三山 元暎 …… 52

M・O・Hレポートー 参加しました!

ソーシャルファームジャパンサミットinびわこ …… 53

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 55

大地からのメッセージ

鹿の眼・人間の眼 武部 治代 …… 57

本の紹介 …… 59

講演日記 …… 60

M・O・Hせんりゅう♪ …… 61

環人レポート 一近江環人 地域再生学座 公開特別講義&

NPO法人環人ネット 総会記念フォーラム

「長者町から長寿町へ」中心市街地活性化の新しい風

小島 なぎさ …… 63

イベント案内、M・O・Hニュース …… 65

4コマ漫画

にこやか …… 68

M・O・H通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙

生枝 耕司

雨森芳洲の生誕地高月町雨森、天川命(あまかわみこと)神社のイチヨウの巨木。滋賀県指定自然記念物。



暮らしやすさって？ 「住」

山里の秋、山と集落の間には高時川。滋賀と福井の県境付近に発した流れは琵琶湖に注ぎ、大阪湾で海と出会います。



私たちが生きていく上で絶対に欠かせないものは、「衣・食・住」である。人類の長い歴史や無限の未来を見ても、この事実は変わらないだろう。すべての人にこの三つが供給されることが、経済の原点である。経済学とか、経営学等が論じられる前にこの原点が実行されていないと、人間は生きていけない。

どうもこの原点が、最近の経済社会では間違っただけで理解され、それが間違っただけのまま実行されているように思われてならない。そこに大きな危機感をもっている。

今や、利益を目的にした投資家（大取組み混せて）の莫大な資金が世界中に供給されているなかで、資本主義経済が世界を支配するところまで巨大化し、世界を動かすところまで来ている。この経済社会では、競争に勝てないと「成長もしくは存続」が望めない。

そのためには経営者はもとより社員、企業全体が、限らない欲望に執着し、その達成のために強い行動力をもって競争に臨まなければ敗者になってしまう。

また企業間競争は「コストダウン、品質管理、流通、開発力」等々で勝敗が決まるため、大量化され、人件費もどんどん削除され、最近ではグローバル

「衣・食・住」は「地産地消」の原点だ

森 建司

化と言うことで、すべての国内産業は減少傾向におかれている。

「衣・食・住」は生活に欠かせないものだけに、すべて地域の産物でありたい。地域の産物はコストが高いから駄目だと言う人も多いが、供給者と消費者が一体となって創り上げたものは、商品

である前に、それは作品であり、「宝」である。

我が家は、築100年余り経過している。施主として頑張ってくれた祖父、建築をしてくれた棟梁、そして地元の材を提供してくれた木材業者、この三人の作品であり、宝である。棟木を探して山をめぐり最良の木材を選び、伐

採して山に寝かせた後、川や湖を筏で運び、後は田圃に雪が積もるのを待って、親戚や近隣の人に手伝ってもらって、棟木に縄をかけ引いて運んで来たという。その話を高齢であまり動けなくなった祖父から、何度も聞いて聞かされた。今の私にとって、この家を守ることが子孫の責任であり誇りであると思っている。

これが「地産地消」の原点であり、自立型地域産業の土壌なのではないだろうか。

本棚にきれいに並んだ蔵書の前で中根さん⑤富金原さん⑥

M・O・H
な店
京都編

二人の作家が手掛ける 古民家ギャラリー

ポーラスタ
PolarSta

ふ きん ば ら かい
富金原 塊
工房えんじゆ 陶芸家

な かね れん
中根 嶺
Ren 金工家

ものづくりから販売まで

京都・金閣寺から徒歩10分、古くは西陣織の工房が立ち並んだ鞍馬口通の小学校に面して「PolarSta」があります。築90年の町家を自分たちの手で2年半かけて改装し、ギャラリー兼ゲストハウスとして2014年10月にオープンしました。ものをつくるところから販売まで手掛ける富金原塊さんと中根嶺さんに、新たな文化を生み出す空間でお話をうかがいました。

■PolarSta (京都市北区)

■2015年7月6日



「PolarStar」 始動 新たなものづくり発信の場

町家の階段を上がると、レトロな引き戸の向こうに金工作家の中根さんの工房が見える。カトラリーやアクセサリーをつくるコンパクトな作業スペースから「こんなところは」と中根さんが出迎えてくれた。壁面の作りつけの本棚には蔵書が並び、見上げた先には天窓から光が差し込む吹き抜け空間。白すぎない壁と温かみのある照明が町家の雰囲気と調和して心地よい。本当に自分たちだけで改装したの？と思わず目を疑いたくなるほど見事な空間。

「PolarStar」はオーナーで陶芸家の富金原さんと金工家の中根さんが運営する



懐かしさを覚える店構え

ギャラリー兼ゲストハウス。東隣の町家には富金原さんの「工房えんじゅ」が12年前から看板を掲げ「PolarStar」の成長を見守っている。

店内には「工房えんじゅ」の陶器や「Ren」の金工作品のほかに、二人がセレクトしたクラフトアイテムも並び、ゲストルーム（予約制）として利用できる二階は、個展を開いたり打ち合わせをしたりと、使い手の工夫次第で楽しく使えてつな空間だ。「ぶらっと立ち寄りてくれたお客さんにも楽しんでもらえるような場所にしたいです。ゲストルームはこれからどんどん活用してもらいたいですね」と富金原さんは意気込んでいます。

カトラリーや器を集めたギャラリー





2



1



4



3

①おっと、遊び心がすぐられる2階 ②ゲストハウスの特等席。向かいの小学校から児童たちの元気な声が聞こえる
③富金原さん作のクジラ ④中根さんが制作した動物たち

出会は滋賀 二人が歩んだ道

二人が出会ったのは中根さんがまだ小学校低学年の頃。滋賀県東近江市で陶芸をしている中根さんの父親・啓さんのもとに6年間クワコ師として働きに来ていたのが富金原さんだった。

「もともと独立したい気持ちがあつて、仕事が終わった後に窯を使わせていただき、自分の作風や方向性を決めていきました。啓さんは当初から自分の作品を自分で売るといふスタイル。各地のクラフトイベントに出展してそこで販売したり、自分で販路を広げていくためのノウハウを身近で学べたことが一番勉強になりました」

中根さんは美術系の高校を卒業後、東京の宝飾工房に就職。結婚指輪などのジュエリー制作を手掛けてきた。

「金工をやることになったのは偶然です。つくることが昔から好きでしたが、金属を初めて触ったときは想像以上に思い通りにいかず悔しかった、そんな想いも原動力になって今があります。実は僕が初めてデザインから制作まで担当した結婚指輪





7



5



6

⑤ 富金原さんが制作した器 ⑥ 壁のざらつき感が味 ⑦ 洗練された町家。天窓から光が差し込む

は塊さんのものなんですよー」

長い付き合いの二人がタッグを組むきっかけになったのは「工房えんじゅ」の隣の町家が空き家になったこと。何か新しいことを始めてみたいという富金原さんの想いと、独立を夢見ていた中根さんの想いが重なった。

思い通りに表現するには
手しづくりが一番！

築90年、床の歪みや柱の傾きは想像以上にひどかった。それでも、自分たちの感性を表現したいという気持ちの方が上だった。細かい設計図などはつくらず、木材をボンと置いてみて「このへんかな？もうちょっと上、そこがよい」として見合い、納得がいく大きさ、高さ、幅を決めていく。「僕たちのイメージした雰囲気は、熟練した職人さんでもつくれません。例えば素人感。この壁だって塗った時の手跡が自分たちでつくったのかな？と安心感が生まれるように思います。僕が好きな場所は中庭。外の壁を室内の壁の色と合わせたことで、庭と室内とが一体となる、不思議





①北極星を意味するPolarSta ②工房えんじゅで制作中の富金原さん ③コソコソと金工する中根さん ④中根さん作のイッカクの置き物 ⑤⑥さまざまなデザインのアクセサリー ⑦ギフトにぴったりな湯呑

な感じが好きです」と話す富金原さんはとても楽しそう。

苦勞したのは柱や梁を補強するところだという中根さんは「家自体が傾いてしまっているから、場所ごとに傾きにに合わせて木材をカットし、合わせることで垂直な柱や壁にしていく。この柱をよく見ると、もとの柱がどれだけ歪んでいたかがよくわかる。そういうところにも注目してもらえればおもしろいんじゃないかな。苦勞した分、愛着が湧きます」

実は、お店の建具のほとんどは閉校した小学校で使われていたもの。窓ガラスや緑色の木枠など、昭和の小学校を思い出させるレトロな素材が、お店の雰囲気にもマッチし、懐かしさを演出する。向かいの小学校にちなんで「裏レンセント」がコンセプトだ。

アーティストとは少し違う 職人であり経営者

「つくったものを、表現」とか「デザイン」ってかいてるんですけど、ただつくることが



あるんですが、僕は「生業なまごころ」として考えています」とまじまじな眼差しで語る中根さんに「僕たちはアーティストではないので、売り上げ目標もあるし経営感覚がないとダメなんです」と富金原さんも続くと。

「日常で使う生活道具をのんびり買っていて、お客さんに自分がつけた値段で買っていただけだと、はじめて売買が成立する。お客さんは自分のお給料から買ってくださるのだから、裏切らないものをのんびり買いたいし、壊れたら可能な限りメンテナンスもしていきたいと思っています。そんなお付き合いを大切にしています」

「ものづくりをめざしている若い人たちに夢を与える」なんて余裕は正直ない。でも、陶芸家でも金工家でもお店を持っていることが見せられたら...

「憧れとか、ふわふわした夢物語だけでは生活できないと体験してきたからこそ、現実を伝えることはできません」と、富金原さんの言葉には重みがある。

「のんびりしたものをのんびり買ってものんびり作るまで含めて、やっと本当のものづくりの手だと思ひたです。そっぴりやっぴり先を走っている先輩を近くで見れて、伝えてもらえて

いる環境は恵まれてると思います」と中根さん。啓さんから富金原さんへ、そして中根さんへ。ノウハウの伝承がいい形でサイクルしている。

メモリアルな瞬間に寄り添いたい

生活雑貨の中でも、ギフトに特化していきたいと話す二人。手づくりの結婚指輪や陶器の引き出物を扱う「結婚」という瞬間に寄り添うお店をめざす。富金原さんは「15年前に引き出物を制作させていただいたお客さんと今も交流が続いていて、ご夫婦が子どもを連れて来店してくれることもあるんです。引き出物っておもしろいですよ。一度きりで終わるんじゃないんで、その家族とのストーリーが続いていくでしょ。そっぴりやお客さんと一緒に歩んでいけるのが理想です」

北極星を意味する「PolarSta」。方角の目印となるこの星のつらに、お客さんが選んでくれる目印となりの輝きです。二人の挑戦は、はじまったばかりだ。

阿 kai

●かきんばらかい
1973年、京都市生まれ。工業高校卒業と同時に陶芸の道へ進む。7年間、ロク口師として下積みをした後、西陣にて築90年の町家を改装し、独立開業。引き出物制作を柱とした活動の中で、各所でのイベント参加、展示会、ショップとの取り引きも継続。独立12年目に隣接した町家にて、クラフトショップ「PolarSta」を設立。日常食器を主軸としながら、オブジェなども制作。

叫 Ren

●なかね れん
1989年、滋賀県東近江市生まれ。美術工芸高校の彫刻科を卒業。東京の宝飾工房に勤め金工を学び主に結婚指輪の制作とデザインに従事。2014年より独立し昔ながらの鍛金という技法を使ってアクセサリーから結婚指輪、暮らしの道具、オブジェなどを制作中。

○PolarSta
京都市北区紫野郷ノ上町41-14
TEL: 075-4006-5664
<http://www.polarsta.com/>

●対談



かわと よしゆき
川戸 良幸

琵琶湖汽船株式会社
代表取締役社長



もり けんじ
森 建司

循環型社会システム研究所
代表

〈暮らしやすさって? 「住」〉

広域的な視点からみえてくる 滋賀の良さを再発掘する

滋賀の観光をリードする琵琶湖汽船が、観光だけに
とられず、より広域的に京都・大阪と滋賀のさまざま
な地域を結ぶことで滋賀県内の文化や暮らしに新たな
光を当てようと動きだしています。川戸良幸社長に循
環型社会の仕組み作りについて、さらに滋賀の県名論
議についても熱く語っていただきました。

■琵琶湖汽船 客船「ピアンカ」(大津市)

■2015年6月30日



琵琶湖から続く「水の路」で 地域にお金^{カネ}が回る仕組みを

森 最近、滋賀県をもっとPRしようという動きがでてきましたね。琵琶湖汽船と京阪グループでもそうした広域観光の仕組み作りを進めておられますね？

川戸 琵琶湖汽船は琵琶湖を使って商売させていただいていますので、地域に根ざした企業として感謝の気持ちをお返しする仕組みを作っていかなければと考えています。そこで10年前に琵琶湖のある滋賀で山・里・湖^{やま・さと・うみ}の三つを連携^{れんけい}づけていこうと決めました。ところがいろいろ考えてみると、滋賀県の中だけで、森さんが提唱しておられる循環型社会のように地域でお金の回るような仕組みが本当に作れるのか疑問がでてきました。

森 滋賀だけではだめですか？

川戸 滋賀の近くには、大勢の人が住んでいて、さらに国内はもとより世界から非常に多くの人が訪れる京都・大阪があります。その京都・大阪と琵琶湖が

いかに深くつながっているかをアピールしようということで「水の路」を考えました。

森 「水の路」というのは？

川戸 鉄道の発展にともなつてバラバラになってしまった京阪沿線の地域の文化や歴史を、琵琶湖とそこから流れ出た水がもう一度結びつけてくれるのではないかと。以前は観光地の文化を点で紹介することが多かったのですが、琵琶湖汽船と京阪電鉄が連携して京都・大阪と琵琶湖を「水の路」で結んで人々の交流を図ろうと。琵琶湖と比叡山^{ひえいさん}の一つのエリアと捉えて広域的なイメージ戦略を展開し、観光創造と沿線再耕^{えんせんさいこう}をすることで、小さいながらも循環する仕組みができればいいなと考えているんですよ。

森 最近観光客は増えていますか？

川戸 ええ。琵琶湖の湖上から眺めた比叡山や鈴鹿山系・湖東三山へ、あるいは竹生島で伊吹山をみたら伊吹山も訪ねてもらうなど、一日をかけて琵琶湖周辺の観光をしてみよう。二つ以上の文化を味わえる滋賀の良さを、私は観光のお客様にも知っていただきたい

と思っています。

広域的な視点から 琵琶湖を見つめ直す

森 川戸社長は滋賀県出身ですね？

川戸 ええ、生まれも育ちも滋賀です。

森 私も滋賀県生まれで、家も琵琶湖のそばにあります。私も含めて地元民は琵琶湖に親しみを感じているんだけど、琵琶湖の偉大さに気づいていないんですよ。またそれとは別に、他県の人にとっては滋賀県と琵琶湖が一致していないこともよくあります。ですから、京阪電鉄から琵琶湖につないでいただくのはとても良いことですし、単に観光客を呼ぶのではなくて滋賀の文化を紹介していく、あるいは文化を新しく作っていくことで地域の発展を考えておられると知って、滋賀県民として非常にうれしく思います。

川戸 京阪グループとしては、何か新しいものを作るといっても、沿線の町の歴史や文化を地域の人に認識してもらって地域の文化を再耕^{さいこう}しよう…あるもの



で十分なので、それにもう一度鉤かぎを入れて耕して光るものを探そうという発想なんです。歴史や文化とのつながりを楽しんでもらえるように、どう物語として結び、創造していくか。知恵を使っています。

長い目で将来をみると、暮らしや文化

といった項目でいろいろな地域と広域的に連携し、その中でお金・人・仕事がある程度回る仕組みを考えていかないといけないと考えています。

森 確かに、京都・大阪・奈良はそれぞれ特色がありますから、広域的な視点も必要ですね。それにしても、滋賀県は

琵琶湖という特色がありながら、それが県と連携した形で活かされていないように感じています。

五つの文化がある滋賀

川戸 実は、滋賀県の人は琵琶湖で一つになれるのか、琵琶湖があるためにバラバラなのかという持論を昔から展開しているんですよ。

森 確かにそうですね。琵琶湖の周囲にいる人間には、対岸が同じ県だとは実感できないこともきつとあると思います。

川戸 最近、滋賀の文化とはどういう文化なのか、歴史を紐解いて少し勉強しています。私なりの結論を言いますと、高島をはじめとする湖西は若狭の小浜、福井の敦賀の文化と非常に結びついている。長浜や米原はどこらかというと岐阜大垣・名古屋圏。大津・草津・守山のあたりは京都の影響を受けている。湖南市や甲賀市は滋賀県の文化よりも地理的に近い伊勢や奈良・伊賀上野の文化に近い。では、いわゆる滋賀県らしい文化はどこにあるのかというと、平安時代に天皇の一番大きな荘園があった近江八幡・彦根・東近江エリアなんですよ。

森 なるほど、考えてみれば滋賀の文化圏は一つではないですね。

川戸 そうです。こういう五つの文化の一つになっているのが滋賀。それぞれの地域の人と接するほどに、文化の違いはつきり感じます。琵琶湖でつながっているから一つだと頭では理解していますが、心がつながっていないところがある。





故郷への愛情は誰にも負けないおふたり。比叡山を背に。川戸氏④森氏⑤

ようで、県議会で
も「近江県」とか
「琵琶湖県」という
名称がでています
が、どう思われま
すか？

川戸 滋賀の「滋」
はうるわしい、人
が集まる、集うと
いうこと。

森 それが「滋」の
意味なんですか？

川戸 はい。「滋」
という漢字のつく
りは人々を集める
パワーがある磁力
を表し、さんずい
へんで水が磁力に

まずは県民のみなさんがお互いに理解し
合うことで、はじめて循環する仕組みが
考えられるのではないのでしょうか。

県名の意味を考えてみる

森 今県名を変えろという動きがある

なっている。つまり琵琶湖を意味してい
るわけです。「賀」はそれを喜びにする、
それに感謝の意をもって行動すること
と私なりに理解しています。また、「滋」
のさんずいへんを取って下に心と書けば
慈悲の「慈」、これも人々が集まるとい
う意味がある。心が集まったら慈悲に

なり、水が集まったら琵琶湖になる。
天智天皇の都の「志賀」などいろいろ
表記がありますし、私の理解が正しいか
どうかかわからないですけど。

森 これは良いことをお聞きしました！
滋賀人同士で話していても「滋賀の意
味がわからない。なぜこんな県名をつけ
たんだろうか」ということによく
なるので、では、「近江」という呼称はど
うなんでしょうか？

川戸 近江は京都に近い湖うみということ
で京都人が付けた名前です。よその人が
付けた名前ではないのでしょうか。今回の
県名論議は、どういう意味で滋賀とい
う県名になったのか、県民のみなさん
もつと考えていただくきっかけにな
ります。

森 県名について考えることで滋賀に
関心を持ちますね。

川戸 滋賀、近江という名称をもう少
し理解した上で、滋賀・近江・琵琶湖の
三つをうまく使い分ければ良いんじやな
いでしょうか。ブランドとしては近江、
県としては滋賀、県のシンボルの琵琶湖
という風に。





「滋賀の文化を掘り下げることがライフワークです」川戸氏

六次産業化で地産地消

森 地域の自立型産業とよく言いますが、地産地消でないといふ日本の国内産業、特に地方が衰退してしまうと思います。滋賀県は日本のほぼ中心にあって交通の便が非常に良いため、企業の進出がすごく多かった。それで滋賀県は「ものづくり県」だと言っています。ところが、グローバル化して滋賀の工場が国外に移っ

てしまい、今はそれが行き詰まってきた。これからは違った意味で滋賀県に人を集めなくてはいけない。魅力ある地方を目指して、東京や大阪に住んでいるより滋賀はずっと良いよということをどんどん発信していきたいですね。

川戸 そうですね。例えばカレーライスが東京で750円だとします。では、滋賀県で東京と同じ750円で作るのか、あるいは滋賀県産のジャガイモやタマネギ、米を使って500円で作るのか。観光客相手だから東京と同じ価格が良いという意見もありますが、私は観光のお客様にも「滋賀のカレーは東京より安くおいしいね」と言われるようにするのが滋賀県の地産地消だと思います。滋賀県で働いている人の給料は東京で生活している人より少ないかもしれない。でも、その差があるからこそ、地産地消で地場

の新鮮な食材を使って東京で750円のもの、500円にすることができると。

森 そうやって地域に仕事を作って、地域が自らの力で生きていけるような社会にしたいわけですね。

川戸 先ほど「ものづくり県」の話ができましたが、ただ土地や人件費が安いといった昔ながらの産業の流れの中で滋賀県を位置づけるよりも、もつと二次産業





「よくご存知ですねえ」森氏

を重視して新しい仕組みを考えた方が
良いと私は思います。これからは農林
水産物を扱う一次産業と二次産業がい
かに連携するからです。例えば海外で「近
江牛はおいしいですよ。近江牛を仕入
れてください」という売り方をするの
か、滋賀県で近江牛を二次加工してし
ぐれ煮や味付けしたステーキを真空パッ
クにして輸出するのか。そういう二次
加工食品を味わってもらって「本当に

おいしい近江牛を食べるなら滋賀県に
来てくださいね」とした方が良いのでは
ないでしょうか。

また、自分たちで収穫した野菜やお
米などを使って地産地消で食事を提供
するなど、三次産業だけでも二次産業
のような形でお客様をおもてなしする
とか…。

森 いわゆる六次産業ですね。

川戸 はい。そういうものづくりの社会

の仕組みを作ることで、
地域内でお金が回るよう
になる。滋賀県なら六次
産業化していけると思っ
ています。そういうところ
に若い人の力が欲しい。
そこで、琵琶湖畔に関わ
り琵琶湖の自然を大切に
考えている研究者やクリ
エーター、いろんなことを
ネットワークで結ぶコー
ディネーターを一人でも
多く発掘して応援し、育
てていきたいと考えてい
ます。

森 それは良い
ですね！競争
社会よりも地
域で生きていき
たいという人が
増えてきている
ようですから、
そういう動き
にうまく合わ
せていけると良
いですね。

川戸 それに、
滋賀にはまだ
まだ育つ余地
のある事業や
産業が多く眠っ
ているので、そ
れらをできる
だけ掘り起こ
して、地域でお
金が回っていく
仕組みを作っ
ていきたいです
ね。都会より
収入が少ない



かもしれないけれど、滋賀県に住んで
ることで豊かで健康だ。そして家族が笑
顔で幸せだという環境が作れたらすばら
しいと思います。

森 お金が多ければ良いというのでは
なくて、人と人の絆の中で生きていく
のが幸せだと思います。行政や企業も、
自然の中で健やかに暮らせる環境に価
値があると気づいていると思うんです
よ。それをいかに実行に移していくか
ですよ。

川戸 琵琶湖で船遊びするだけで本当
に琵琶湖を紹介できているのか。終点あ
るいは出発点にある町や山に、人々に訪
ねてもらえるだけの価値のある豊かさ
を生みだしておかないといけない。運ん
だ先にお客様が満足できるような豊か
さがあるか。それがこれからの勝負ど
ろです。

森 御社が時代の先駆けになるかもし
れませんが！ 循環型社会への取り組
みなど、これからもご指導ください。あ
りがとうございました。



外輪船ミシガンをバックに川戸氏と森氏

感謝奉仕 川戸良幸

●かわとよしゆき 1955年4月滋賀
県大津市生まれ。1974年滋賀県立膳
所高校卒業後、1975年4月琵琶湖汽
船株式会社入社、2014年6月代表取
締役社長に就任。入社以来、「琵琶湖周航
の歌」の如く、社内各事業を巡り歩き、京
阪電鉄より来られた歴代社長に仕込まれ、
琵琶湖に生まれて、琵琶湖で育てられた、
滋賀産業の地産社長となる。

○琵琶湖汽船株式会社

滋賀県大津市浜大津5丁目1-1

TEL: 077-562-4118

<http://www.biwakokisen.co.jp/>

勇気凛々 いの壺を打た破れ 森建司

●もりけんじ 1936年滋賀生まれ。
滋賀県立長浜北高校卒業。新江州株式会
社顧問。循環型社会システム研究所代表。
アグリビジネスカフェ座長。300年経
営塾塾長。

著書 / 『吃音はなある』遊タイム出版、『循
環型社会入門』新風舎、『中小企業にしか
できない持続可能型社会の企業経営』サ
ンライズ出版、『中小企業相談センター事
件簿』サンライズ出版、『中小企業が生き
る道』サンライズ出版。



〈暮らしやすさって? 「住」〉

エコ生活 地産地消の家で



みやむら ふとし
宮村 太
設計士



きしもと ゆうすけ
岸本 雄亮
大工



むらかみ さとる
村上 悟
NPO碧いびわ湖 代表理事



みずしま さちこ
水島 左知子
野洲生活学校 代表



オノミユキ
住人・コーディネーター

弊誌で「山暮らし子育て日記」を連載されているオノミユキさんが、素材も大工さんも地元の地産地消の家を朽木に新築されました。この家の設計士・宮村太さんと大工・岸本雄亮さん、エコな家づくりに関わる村上悟さん、エコな暮らしの啓発活動をされている水島左知子さんが木の香りもすがすがしい新築したてのオノ邸に集まり、家について暮らし方についてとことん語り合いました。

■オノミユキ邸（高島市朽木）

■2015年7月9日



地元の木で家づくり

オノ それぞれにどのような活動をされておられるのでしょうか。

宮村 私は設計士の仕事をしながら、12年前に立ち上げた「安曇川流域・森と家づくりの会」で朽木の林業家・湖西地域の製材所・工務店・設計士と一緒に地域の木を使った家づくりをしています。10数年で40軒近い家をつくりました。会として、今年滋賀県主催の「低炭素な『まちと建物』コンテスト」で受賞したり、「ココクルマザーレイクセレクション2013」にも選んでいただいたりと公の場で取りあげていただく機会が増えてきました。しかし、まだまだわれわれの家づくりは知られていない。地域の木を使い、できるだけ自然の素材や地域のものを活かした家は快適に暮らせる。それを自分自身も体験しているので、そういう家づくりをどんどん広めていきたいです。

オノ この家を実際に建てられた大工の岸本さんは、宮村さんたちの家づくりの会になぜ入ったんですか？

岸本 会に入る前に一度、宮村さんと一緒に仕事をさせていただいて、自分の中の意識が変わったんです。実家が製材所なので、それまでも木を使ってはいました。でも、ただ単に高島市の木を使っているだけ。ところが、宮村さんは木を使いこなしていて……ここまで木を使わはるんやと驚きました。

村上 例えばどういう施工をしたときに、そう感じられたんですか？

岸本 丸太で使う、お風呂に木を使う、耳がついた木（木の皮がついた木材）を使うとか。木は四角いもの、耳がついた木はテーパーという固定観念があったもので驚きました。それまで見えなかった木への想いが見えてきた。そのときに誘っていたいたんです。それから高島市に住んでいるのだから高島市の木にこだわりたいと考えるようになって、今は、ほぼ100%高島市の木を使って家をつくっています。

宮村 朽木の林業家さんと一緒に家づくりをすると、事務所に座っているわけではないような木の形や特性について教えてもらえるんですよ。そしたら、こう

いう木の使い方をしたらおもしろいんじゃないかとかいろいろ考えるようになりました。

オノ まだ気づいていないこだわりがごの家には隠されているかも!?

自然の恵みを活用して家づくりをするには

オノ ここは川のそばで気候的にも湿度が多く、また風が吹き下ろしてくるため、環境に対応した家にしたかったので、また自然あふれるところなので、何か自然のエネルギーを使って生活ができたなら良いなと考えて薪ストーブを入れました。

村上 薪ストーブは暖房だけでなく、水を沸かすのにも使っておられるんですか？

オノ はい、給湯兼用の薪ストーブです。村上さんは自然エネルギー関係の活動をされてらっしゃいますよね？

村上 私たち「NPO 碧いびわ湖」では、約40年前に起きた琵琶湖のせつけん運動を原点に、身近な自然、身近な人とのつながりを大切にしたり暮らしをつくり





2



1



3

①会員による作品展(野洲生活学校) ②雨水タンク(NPO碧いびわ湖) ③山の伐採見学ワークショップ(安曇川流域・森と家づくりの会)

広める活動をしています。たとえば今の住まいでは水もエネルギーも遠くにあるものを使っているけれど、これからは、オノさんがここでやってこられたように近くの水や山の木を活かす住まいにしていこう、と。ただ、数十年前の暮らしとは違う形で再創造することに取り組んでいて、たとえば雨水を地下の貯留槽に溜めて散水・トイレ・洗濯に使う仕組みを作ったり、太陽熱温水器を屋根に置いてお風呂・洗面・台所に使う、森の木は薪ストーブや木製サッシに使うといったことに取り組んでいます。

オノ 先ほど宮村さんが言われた滋賀県のコンテストで、村上さんたち「NPO碧いびわ湖」も受賞されたんですよね？
村上 はい、雨水利用、太陽熱、薪ストーブ、木製サッシをすべて取り入れて建てられた草津の綾さんのお家(68ページ参照)が受賞しました。一般的に、一人一日だいたい250リットル、つまりお風呂二杯分くらいの水を使っているんですが、飲み水は一割もない。ほとんどはトイレと洗濯とお風呂。トイレと洗濯は雨水を使ったら良いんじゃないかと





雨水の実験「あ、ほんと。泡立ちがちがう」村上氏④オノ氏④

考えて、地下に貯水槽を作りました。実際に使ってもらうと、洗濯は水道水より雨水の方が泡立ちが良いことがわかりました。

オノ 黄砂や花粉が混じっていないの？

水島 考えませんでしたね(笑)。
エアコンはないんですか？
電源は引いています設置はし

ここまでしたんだけど、雨水のことまでは組み込めるようにしました。その

洗濯物に黄砂が付かない？
村上 フィルターなどでろ過をして溜めるので大丈夫です。メンテナンスもほとんど要りません。3トンのタンクを設置した家で、水道代が約2割減りました。

オノ 2割の削減は大きいですねえ。

宮村 ここは山の中で、雨が降ると道が土砂崩れで寸断されていたので、何かあったときにこの家だけで独立した生活ができるようにとエネルギーについて考えました。薪ストーブ以外にも、電気が止まることを想定してこの家はガスは使っていないんですけど、いざというときのためにキッチンのコンロの中に七輪を組み込めるようにしました。

「山に学び木を知りたい」宮村氏



ていません。窓を開ければ風が入るし、木造の家は日中涼しいです。

水島 気温も低いのでしょうか、涼しいですね。設計上もいろいろ配慮してあるんですね。

宮村 断熱をきちんとしています。

水島 山の中で湿気は？

宮村 湿気対策としても、できるだけ木をたくさん使って、壁自体も非常に湿性のある素材を使っています。自然のものを使うと、調節してくれますから。今の梅雨の時期が一番快適性が体感できると思います。

オノ 梅雨ですけど快適です！



暮らしの中でできることから

オノ 水島さんは37周年を迎えた「野洲生活学校」で活動を続けてこられて、次世代の子どもたちのためにという想いを大事にされているとお聞きしました。

水島 野洲生活学校は環境問題と食の安全を柱に、生活者の立場で少しでも地域を良くしたい主婦層が集まって立ち上げた会で、私は平成9年から参加しています。学びながら自分でできることから始めて、みなさんに啓発していこうと活動しています。具体的な活動としては、大豆畑の世話をするところから始まる味噌づくり、グリーンコンシューマー活

動、マイバック持参推進運動、一日にどれくらい食品を捨てているのかチェックする食品ロス問題：最近ではゴミ減量の重要性を子どものうちから知ってもらいたいと、行政と他の市民活動団体と一緒にゴミ削減のオリジナルの人形劇を作って小学校や幼稚園・自治会で出前講座を実施しています。

省エネ問題については、家を新しく建て替えるというのは中々できませんから、窓辺にゴーヤを植えて光を遮りましょう、エアコンをつけたら空気を上手に回しましょうとか。雨水にも会員のみなさんの関心が高いです。

オノ 環境に適した家を新築するのは大変ですが「今の家で今の生活をちょっと

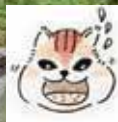
「暮らしに工夫したい」水島氏

変えるだけで環境に負荷のかからない暮らしができるんですよ」ということを広めておられるのは、非常に価値のある活動だと思います。
水島 電気を節約するためにコンセントを抜

「木のお墓にもチャレンジしたい」岸本氏

く運動もやっていました。

オノ 前に住んでいた家は古くて、炊飯器と電子レンジを同時に使うとヒューズがとぶんです。だから電気の使用量を考えながらの暮らしを家族で15年間していました（笑）。すると、この家は電気の容量がいっぱいありますが、家族全員そろっていても照明は一カ所しか点いていなかったりする。やっぱり習慣だと思えますね。





5



6



① エッセイでおなじみの旧家屋 ② ゆるやかに集落を流れる清い水 ③ 宮村氏の工夫を凝らした和室にて。外景と陽の光を取り込んだガラス張りの床の間 ④ 新築の外観 ⑤ 木目を揃えた扉が美しい。苦勞したかいあり ⑥ これが災害がきても安心なコンロ ⑦ 自然光を取り入れた和室 ⑧ 冬はあったか快適、薪ストーブ ⑨ 備えあれば憂いなし、薪のストック



9



8



7



岸本さんお気に入りの階段。本の収納にひと工夫

次の世代、 家の最後まで 考えて建てる

オノ 木の魅力って何でしょう？

岸本 木は無限な感じがある。例えば4年前に木造で建てられた朽木の小中学校の体育館はすごいですよ。そこに使われた木はおじいさん世代が孫たちのために学校林に植えた木で。良いなあと思いますね。

オノ 次の世代のことを考えて今動く。水島さんもそういうお考えですね。

水島 環境や食に関心のない方をどう巻きこんでいくか。そのためには子どもたちを通して地域とのつながりを深める…それが目標です。

オノ 宮村さんの今後は？

宮村 設計士の仕事の領域を越えて、もっと山の仕事、木材を生産する現場に関わっていただける仕事ができると良いなと思っていますね。

村上 最後に、私が大工見習いをしてきたときに、非常に感動したことを紹介させてください。旧びわ町で茅葺き屋根の家の解体に行ったときのことです。今からホコリまみれで解体するというのに、なんと隅々まできれいに掃除してあったんです。ガラスもピッカピカに磨いてあって。家主さんが、家への感謝を込めて、お別れのご挨拶をされたんだと思います、とても感銘を受けました。

オノ この家は200年もつと言うけれど、200年後には私は掃除できないな(笑)。

村上 木を大切に活かして家を建て、長く住まう、そして最後は感謝を込めて大地にお返しする。そんな住文化が滋賀に根づいたら良いですよね。

オノ ていねいな仕事、ていねいな暮らしについて、良いお話をありがとうございます。



和顔愛語

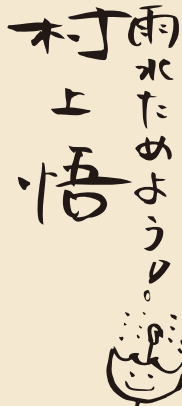
宮村太

●みやむら(ふとし)1967年東近江市(旧五個荘町)生まれ。滋賀県立短期大学工業部建築学科卒業後、株式会社アサヒ設計に勤務。公共建築から住宅まで様々な建物の設計に従事。2004年、朽木の木を使った家づくりとの出会いをきっかけに、その仲間と安曇川流域・森と家づくりの会を設立し、森とつながる住まいづくりを一人でも多くの方に伝えたいと活動を始める。2007年4月、木造建築に特化した宮村太設計工房を設立し、地域の木をつかった住まいづくりを日々奔走中。最近では、木造の公共建築の設計にも取り組む。2007年滋賀県建築士会こだわり住宅賞BBCびわこ放送賞受賞。

○宮村太設計工房
<http://www.fm-kobo.com/>
 ○一般社団法人安曇川流域・森と家づくりの会
<http://www.mori-ie.com/index.html>

木っていいよわ 岸本雄亮

●きしもとゆうすけ1981年高島市朽木生まれ。朽木で育ち、自然に囲まれ、朽木に事務所を構え仕事をしている。朽木の山の木を出し、製材・自然乾燥・製品・施工とすべての工程に関わり、一つ一つ、一本一本大切にしながら日々取り組み、地産地消の家づくりを目指す。面白そうな木を見つけたらつい木工に、はまっています。



●むらかみささる1976年旧余呉町生まれ。余呉湖での水鳥の研究や環境活動を経て、大工見習いと半自給生活を実践。2009年からNDO碧じわわ湖(旧環境生協)代表に。志を共にする会員と一緒に「ほんとうの豊かさ」に満ちた暮らしの創造を普及に取り組んでいます。

○NDO碧じわわ湖
<http://aobiwako.shiga-saku.net/>
 ※「綾さんちのオープンハウス開催!」
 68ページ参照

一人の百歩より百人の一步で
 環境つくりたい!
 水島左知子

●みずしまさちこ
 11野洲生活学校代表。京都生まれ。幼少のころから祖父の故郷滋賀で育つ。1997年より生活学校に参加。「長の安全と環境問題」に取り組んでいる。一方で行政や他の市民活動団体と協同で「ごみを減らそうプロジェクト」として、ごみの出ない美しいまちを目指して「オリジナルの人形劇や紙芝居」等を小学校・保育園・幼稚園・学童・サロン等で出前講座を実施して啓発活動をしている。

初心は大事なおみせ

●おのみゆき1997年に単身朽木に移住。現在は人口16人の集落に夫と3人の子ととも住み、時々マンガを執筆している。サンライズ出版からM・H通信にも掲載されたマンガを本にして出版。

③ M・O・Hインタビュー 〈暮らしやすさって? 「住」〉



「文化の発電所をめざして10年だよなあ」 健夫さん④ 「うふふ」 美愛さん④

季節の風を感じる里山で みつけた表現の場

かわばた たけお かわばた みあ
川端 健夫・川端 美愛
木工作家 パティシエール

● 築90年の古い木造の建物を店舗兼ギャラリーとして再生した「マンマ・ミーア」。甲賀市の静かな田園地帯という立地条件にもかかわらず、地元はもとより京都や名古屋から訪れる人も多く、評判がクチコミで広がっています。建物の再生を決意するまでの経緯、この場所だからこそ実現できたこと、地元愛の地産地消、そしてこれからの夢を木工作家の川端健夫さんとパティシエールの美愛さん夫妻にじっくりお聞きしました。

■マンマ・ミーア（甲賀市甲南町野川）

■2015年7月23日



古い木造建築に流れる心地良い空気

三重県との県境に近い甲南町、緑豊かで穏やかな里山の高台に、一軒の古い木造の建物が建っている。築90年ほどの廃屋寸前だった建物は、11年前ここへ引っ越してきた川端健夫さん・美愛さん夫妻によって再生され、ギャラリー・パティスリー・カフェ・木工工房の複合施設「マンマ・ミリア」として新たな命を吹きこまれた。

かつては農業学校やニット工場として使われていたという建物は、引き戸や木の床、横に長い構造など、そここに今も木造校舎の面影を色濃く留めている。建物そのものの良さを最大限に生かして手を加えずぎない。余分な装飾も音楽もない。その匙加減が心憎いほど絶妙だ。2014年には、滋賀らしい商品や取り組みを表彰する「ココクルマザレイクセレクション」を受賞している。

カフェに座って美愛さんが作るフレッツシユなケーキを味わいながら、眼下に広

がる田畑と小さな集落、ゆるやかな稜線に流れる低い雲をぼんやり眺める。静かなBGMが流れる木造の建物も目の前の風景もどこか懐かしく、ケーキが盛られた木のプレートや木の椅子の優しい感触が心地良い。毎日の慌ただしさにザワザワと波立った心がしんと静かになっていく。特に観光スポットが周辺にあるわけでもないこの場所へ、遠方から訪ねてくる人が多いというのも、ここに座ってみれば納得がいく。

店内の木の椅子やテーブル・プレートはすべて木工家である健夫さんの手によるもの。健夫さんの木工作品と美愛さんが新鮮で安全な素材だけで作るスイーツのコラボレーションが、ホッとするような居心地の良い空気感を生みだしているようだ。

素材そのものの味を大切にしている美愛さんは「できる限り有機無農薬で、できる限り地元で栽培された旬の新鮮な素材を使いたい」という強い想いをもち、防腐剤などは一切使用しない。素材の良さを見極める目がしつかりしているのは、大学で酪農や農業を学び農業に

ついて知っているから。地元・甲南町にある成田牧場の低温殺菌牛乳や宮ペリーの朝摘みブルーベリー、伊賀上野の永井口農園の卵。一つ一つ美愛さんが吟味して選び、愛着をもって使っている。

「ここは人が温かいのが良いですね。おいしい地元食材もいろいろ教えてもらっています」

ニコニコ笑顔の健夫さん・美愛さんと話していると、すべて順風満帆にみえるのだが、実は初めから何もかもがうまくいったわけではない。

ボロの建物を選んだ二人

東京でそれぞれに木工とパティシエールの修業をした二人は、独立して自分たちの店舗兼工房を構えたいと考えた。お金がないから最初は小さなカフェから始めて、将来はもう少し広げてギャラリーや工房を併設しよう。そんな心づもりで全国を回って物件を探した。ビル内のコンビニ跡の空き店舗、奈良の町家…なかなか思うようなところがみつからず、知人を通して紹介してもらった



甲賀の物件を訪ねた二人。そこで目にしたのは、壁がところどころ崩れ落ち、窓ガラスの半分は割れ、床板が見えないほどホコリと土が分厚く堆積したボロボロの建物だった。第一歩を踏みだそうとしている二人にとって、放置されていた建物は手に余るほど傷んでいて広すぎる。健夫さんは「ここをお客さんに来てもらえるほどきれいにするのが、どれほど

大変か、想像しただけで気が遠くなりそうで、ここではとても無理だ」と思った。

それから11年——ボロボロの建物を再生してオープンした「マン・ミーア」は、平日にもギャラリーやお菓子を目指して訪れる人の姿が絶えず、甲南町のランドマークのような存在になっている。健夫さんが

季節のケーキセット (税込1,382円)



尻ぐみするほどだったという当初の姿は想像できない。この建物を選んだ決め手はどこにあったのだろうか。

「初めてここへ来たとき、高台からみえる昔ながらの里山の景色に感動して、私が『絶対にここがいい!』と言ったんです。東京では狭くて窓一つない厨房で20人くらいがひしめき合うような状態で修業していました。田舎育ちなので、自分のお店をもつときは景色が良くて開放的で、雨や風を感じられる気持ちが良いところでしたいと思っていました。改修や





フレッシュケーキから焼き菓子、クッキー、ジャム、バラエティ豊かな品揃えのパティスリーミアとスタッフの皆さん

掃除が大変だとか、私はその時は全然考えていなくて」と美愛さんは朗らかに笑う。

進まない改修工事

周辺の環境と景色にひかれた二人は2003年10月、廃屋のような建物に引っ越してきた。しかし、新生活は甘くなかった。電気のみでガスはなく、水道も屋外にしかない暮らしは「ほとんどキャンプ生活」。どこから手をつけたら良いのか見当もつかないほど荒れた建物を前にして、自力でなんとかしようと考えていた二人は遂方に暮れてしまう。改修に手をつけられないまま落ちこんだ気持ちで迎えた新年、健夫さんは知人に手伝って欲しいと手紙を書いた。

手紙を受けとった30人ほどが手助けに駆けつけ、ようやく改修工事が本格化。仲間と一緒に壁のペンキや漆喰を白く塗り直し、床に積もったホコリや土を取り除く。



①均一な力加減でいいねいに、心を込めて ②温かみを感じるベビー用スプーンなど
③木の香りと四季の移ろいを愛でながら。工房にて

ホコリの下に古い味のある床板が隠れていたという嬉しい発見もあった。壁を作ったり、間取りの変更やトイレはプロの大工さんに依頼。明るく開放的な空間にするために間仕切りを取り、店内の仕切り戸を下までガラスに替えたのは二人のアイディアだ。半年にわたる改修工事の末、2004年7月、ついにオープンの日を迎えた。

「春は田んぼに水が入って鏡みたいできれいだし、夏は稲が緑の絨毯みたいになり、秋は収穫の黄金色。ここは里山の自然が残っていて、人の営みも感じられる。夏の早朝、工房でヒグラシの鳴き声を聞きながら木を削っていると、つくづくこれは良いなと思えます。五感を全開にできる素晴らしい環境です」

古い建物の再生は本当に大変だったけれど、健夫さんは美愛さんの直感に感謝している。

自分が表現したいことは？

「マンマ・ミーア」での毎日は、健夫さんと美愛さんそれぞれの仕事に少しずつ変化をもたらした。

木工の師匠から「カッコイイものを作りたい。どこにあっても川端健夫の作品だとわかるようなものを作らないと意味がない」という教えを受けた健夫さんは、オープン当初は世界のどこにもないような形の椅子や机などの家具を作ろうと思っていた。しかし、自宅の食卓は段ボール箱に板を置いただけ。形がカッコイイことを追究した家具は家族の日常には合わなかった。

そんな健夫さんに転機が訪れた。子どもの誕生だ。助産師さんから新生児のためのシロップ用スプーンを木で作ることをすすめられた。赤ちゃんの口の大きさを想像し、赤ちゃんが触るだけで気持ちの良い形にしようと考えながら木を削る。それがとても楽しかった。それがきっかけになって「本当に暮らしの中で使うものを作ろう。プレートもスプーンやフォークも使いやすい普通の形のも





6



4



5

④季節のフルーツが入ったシュークリーム ⑤コンフィチュールも季節に合わせて
⑥「素材の良さにほれほれます」と美愛さん

のを作ろう」と健夫さんは考えるようになる。「ここで暮らすうちに、この建物や環境になじんでだんだん僕自身が変わってきた」と言う。今は、手彫りのノミ跡が美しい木工のプレートや、手になじむカトラリーが創作活動の中心となっている。

一方、オープンから4年ほど経った頃、美愛さんにも転機が訪れる。それまで修業時代に習ったお菓子が日本一美味しいと思いい、そのまま作ることで満足していた美愛さんは、「マンマ・ミーア」のギャラリーを通して出会ったものづくりの仲間と交流する中で、ものづくりにかける強い想いや姿勢に触発される。「何があっても一生この仕事を続ける」と心に決め、「自分が作りたいもの、お店で表現したいこと」を探し始めた。

表現したいことの一つはジャム（コンフィチュール）という形になった。旬のみずみずしい果実や

野菜を素材に使ったジャムは、ハーブやスパイス・洋酒がほのかなアクセントになり、今まで味わったことのないフルーティーな味と香りが深い余韻を残す。まさに美愛さんの「作品」だ。また、コース仕立てのスイーツランチ（毎月第3木・金・土曜のみ）では肉や魚を使わず、新鮮な旬の野菜を主役に乳製品や卵を使用。創意工夫を凝らして、毎月新しいメニューを考えるのはプレッシャーであると同時に大きな喜びでもある。

“文化の発電所”

「ここを始めた当初から、文化の発電所にしたという思いがありました。ギャラリーをただ単に作家さんの展示会場にするのではなくて、作家さんと一緒にここでしかできないことをやろうと考えています。それは僕にとっても刺激であり、僕にとつての表現でもある。文化の発電をすと言ったらおこがましいですけど、文化の種火くらいは起こせたらと思っています」

二人の次なる夢は、本に触れられる



1



3



2





4

①文化の発電所「ギャラリーマンマ・ミーア」では「素材の野生」qualia-glassworks展(2015年7月26日まで)が開催されていた
②格子ガラスで明るい店内 ③里山の景色は刻々と変化して楽しい ④健夫さんのテーブルと椅子。座りやすく居心地が良い。シンプルなフォルム ⑤学校の面影が残る建物



5





「ちよっぴり照れくさいね」丘の上の校舎で2人の技と笑顔が心をいやす、幸福な空間

フリースペースを「マンマ・ミーア」内に作ることに。本屋さん、あるいは無料の本が読める小さな図書館にしようと計画中だ。実際に本を手にとって紙の手触り、本としての美しさを感じながら、読む本を選んで欲しい。ネット書店とは違った本との出合いの場にしたい。本好きな健夫さんのそうした想いが、早ければ来年にも具体的な形になるかもしれない。健夫さんと美愛さんが今度はどうな文化の火を甲南町の高台に灯すのか、自然体の二人による「マンマ・ミーア」がこれからどう変わっていくのか、今からとてもワクワクしている。

文化の茶室所 夫健美 川端美

●かわばた たけお 1971年大阪府枚方市生まれ。東京農業大学林学科卒業後、農業法人に就職。農業者として4年間土にまみれる。その後、足立技術専門校木工科を経て、木工作家、木内明彦氏に師事。2003年甲賀の里山で木造校舎と出合い、工房をつくる。2004年その木造校舎を改装し、菓子工房マンマ・ミーア(現patisserie MIA)とギャラリーを始める。

●かわばた みあ 1975年高知県生まれ。子ども時代を三重県で過ごし北海道の帯広畜産大卒業後、三重県の農業法人で菓子づくりの道に入る。東京のケーキ店で3年間勤務したのち、滋賀県甲賀市に移住。夫、川端健夫(木工)とともに2004年7月に菓子工房とギャラリー、カフェを兼ねたスペース「マンマ・ミーア」をオープン。2009年、菓子工房部門を「パティスリーミア」と改名。

○ gallery-mamma mia +
patisserie MIA
滋賀県甲賀市甲南町野川8030
TEL:0748-86-1550
<http://mammamia-project.jp/>



しがのええもん 五十三次 ～木編～

「しがのええもん五十三次」勝手に選定委員会



原生林に古代から息づく、トチノキの巨木林。
樹齢500年以上の命が私たちに語りかけます。自然の力で生かされている多くの命、みなさんの身近にも、こんなに恵みとストーリーが眠っています。ほら、視線を上げて深呼吸してみましょう。勇気が湧いてくるでしょう。

前口上

今号の「しがのええもん」は、「木」がテーマです。周囲をぐるりと山に囲まれ、面積の約半分を森林が占める滋賀県のことですから、「木」にまつわる「ええもん」には事欠きません。ご紹介しきれない名木・巨木がわんさかあります。

湖北

1 丹生とよぶの木彫（米原市）

米原市上丹生は、木彫の里として知られ、明治期に木地師、鍍金具師、塗師、箔押し師など仏壇作りの職人が集まった全国でも珍しい集落。伝統的な木工品を作り続けている。

2 ブナ（樺）の群生地（長浜市）

白神山地から連なるブナ帯の南の端が長浜あたり。標高700メートルからブナ林が形成される。ブナは成長が遅い上に、腐りやすく利用されなかつたためか、漢字はきへんに無。

3 桑の木（長浜市）

水が清い湖北はかつて養蚕が盛んで餌の桑を広く栽培していた。田園に並ぶ桑の木（太い幹に細い枝が伸びる）は日本原風景の一つ。桑畑の地図記号は「Y」に足をつけたような形。

4 余呉湖の埋没林（長浜市）

余呉湖底遺跡では約3000年前の埋没林が発見されている。埋没林は火山活動や水面の上昇などで森が地中や水中に埋没した。縄文時代の土器も出土している。

5 トチノキの巨木（長浜市）

長浜の丹生ダム建設予定地近くで見つかったトチノキの巨木林は、西日本最大級の規模。幹回りが3メートル以上の巨木が林立する。樹齢500年以上と推定されるものもある。

6 リスのエビフライ（全域）

リスがマツボックリを根元までかじり取った跡がエビフライにそっくりなので、こう呼ばれる。発見できたら山歩きがますます楽しくなるかも？

©穀粥



7 やまのこ体験（全域）

滋賀県の体験学習で県内の小学4年生が森の中を歩いたり、植物の標本作り、間伐体験、炭焼きなどを学ぶ。県内に8つの体験施設がある。専任の指導員がサポート。一生の思い出に。

8 木の香る淡海の家（全域）

木造住宅を新築する時に県内で生産された木材「びわ湖材」を一定以上使うと助成される制度。耐震やバリアフリー改修工事に「びわ湖材」を提供する制度も。



湖西

11

柿渋(全域)

柿の渋は染料として使われた。青いうちに収穫した実を搾り、汁を発酵させる。防水・防腐効果があり、丈夫になるため、番傘や紙の着物に使われた。渋い茶色を活かしたシャツやバッグも人気。

10

木質バイオマス(全域)

木材の需要を広げるため、県から木質バイオマスのヌートープを設置する経費の一部が補助される。バイオマスは「生物(bio)」「塊(かたまり)(mass)」の意味。伐採した枝やおがくずなど。

9

県の木「もみじ」(全域)

昭和41年に県民投票で決定。永源寺、鶏足寺、日吉大社など紅葉の名所が多数ある。京の日比谷公園には全国都道府県の木が植えられている。

12

マキノのメタセコイア並木(高島市)

マキノピックランドに続く道沿いに2キロあまりに連なるメタセコイアの並木。円錐形に整った姿が四季折々楽しめる。和名アケボノスギ高さ100メートル以上。日本紅葉の名所百選。

13

里山(高島市)

写真家の今森光彦さんは里山を「人と生き物が共に暮らす日本古来の農業空間」と表現。現代の生活に溶け込む里山の暮らしを紹介した放送番組や雑誌連載をきっかけに一気に浸透。

14

マルイ醤油の杉樽(高島市)

杉樽を使って3年じっくり仕込んだ天然醸造の醤油。深みのある色と存在感のある味が特徴。風味を活かしたラスクも人気。

15

盃の下ゆく菊や朽木盆(芭蕉)(高島市)

朽木盆は菊盆とも呼ばれ、菊をはじめ花鳥風月をあらわした漆塗りの器で人気を博した。芭蕉32歳の時に謡曲「養老」をヒントに、盃の酒が盆に描かれた菊に流れるさまを美しく詠んだ。

19

華階寺のイチヨウ(大津市)

大津駅から琵琶湖に下る「30メートル道路」の真ん中に立つ存在感のある2株のイチヨウ。華階寺の開祖当時に植えられたとか。道路をつくる際に伐採せず保存した。

18

紀伊屋ブルーベリーファイルス(大津市)

オーナーが大津市伊香立の素晴らしい景観にほれ込み、関西では魁さきげとなるブルーベリーの栽培に成功。無農薬、無化学肥料で育てる農園。レストランやカフェも人気。

17

比叡杉羊羹(鶴里堂)(大津市)

大津菓子の老舗 鶴里堂の看板銘菓。比叡山延暦寺の千年杉を羊羹で表現。丸い筒型のパッケージは、細い糸を引っ張るとフタが取れ、底を押し出すと羊羹が現れる仕組み。

16

いかだ流しとしこぶちさん(高島市)

安曇川は、かつて山から材木を運び出す筏(いかだ)流しが盛んだった。悪さをするカッパどもを退治する神様「しこぶち(志子)洲、思子洲、志古洲さん」を祀る神社が流域にたくさんある。

湖南

20

大津そろばん (大津市)

「そろばんと言えば大津、大津と言えばそろばん」と言われ大津はそろばんの名産地。東海道沿いで土産物として好評だった。中国のそろばんを元にし、5の玉が2つある。

25

大將軍神社の スダジイ(大津市)

京阪電車坂本駅近く大將軍神社には県下有数のスダジイの巨木がある。人の背丈ほどまでに根が盛り上がり、生命力を感じる。県自然記念物。隣には最澄生誕の地とされる生源寺がある。

21

さざ浪や志賀のみやこは あれにしを むかしながらの 山ざくらかな(大津市)

平忠度作。『千載和歌集』に「よみびとしらす」として収められている。「ながら」が掛詞になっており、長等公園近くに石碑がある。

24

縄文人のどんぐり (大津市)

瀬田川との境目の湖底にある粟津湖底遺跡は、縄文時代の陸地。貝と木の実が交互に層となっている。トチ・ヒシ・ドングリなどの実をすりつぶして獣肉と食べたのかな。

26

グミの実(全域)

グミはバラの仲間で、さくらんぼを長細くしたような赤く透き通った実をつける。通学路のお家で、鈴なりになったグミの実を黄色い帽子いっぴいにつみとらせてもらった思い出が…。

22

ヘレン・ケラーの桜 (大津市)

ヘレン・ケラーが昭和12年に滋賀を訪問した記念に琵琶湖ホテルの敷地内に植えた桜。ホテルの移転で移植した後枯れたが、接ぎ木が保存され、孫にあたる桜が今年の春に復活、開花。

23

粟津の晴嵐の 松並木(大津市)

「粟津の晴嵐」は、近江八景の一つ。江戸時代から戦前の頃までは東海道沿いに松並木が続いたが、戦時中に松根油を取るためや近代では道路の拡幅工事で伐採、今では数本が残るのみ。

27

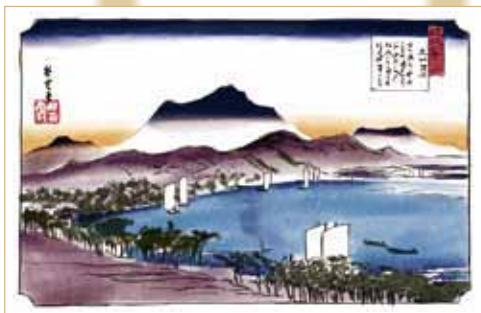
平松のワックシマツ 自生地(湖南市)

美松山に約200本が群生。1本の根から枝が広がるのは全国でもここだけ。国の天然記念物。江戸期の「東海道名所図会」「伊勢参宮名所図会(寛政9年1797年)」にも。

28

近江花緑公園 (野洲市)

三上山麓にある宿泊施設、木工アトリエ、植物園などの施設をもつ森林公園。四季折々の植物を楽しめる。植物園のサクラやバラ、シャクナゲの森は見どころ。木工体験も。



©穀粥



31

畑の枝垂れ桜 (甲賀市)

樹齢400年を超えるエドヒガンのしだれ桜。茶畑を背景に大きくしだれた枝いっぱい咲き誇る姿は地域のシンボルにふさわしい。甲賀市指定の天然記念物。



30

三大神社の砂擦りの藤 (草津市)

草津市三大神社の藤は、花序が2メートルほどになる見事な「砂擦り」の藤。藤棚から紫色の長い花序が連なり、けぶるように美しい。志那神社と惣社神社をあわせ「志那三郷の藤」と呼ばれる。

29

びわこ地球市民の森 (守山市)

野洲川の廃川敷地を活用し、平成13年から植樹が始まる。約3500人が参加し、約8000本を植えた。豊かな森づくりが進められている。出合いのゾーンなど5つのゾーンが。

32

樨野寺 (甲賀市)

本尊いちいの観音は、伝教大師が甲賀を訪れ、樨(いちい)の生木に彫ったと言われる。坐仏十二面観音菩薩として国内最大。延暦21年には、征夷大將軍の坂上田村麻呂公が祈願、討伐を果たし伽藍を建立。毘沙門天像を彫刻したと言われる。樨の木は年輪が詰まり、狂いが出にくく光沢が美しいため、机の天板や天井板に使われる。また二位と同じ音のため、貴族の笄(びやく)にも使われた。

33

大池寺の蓬萊庭園 (甲賀市)

禅寺である大池寺の蓬萊庭園は小堀遠州の作と言われる。サツキを二重にうねるように刈り込み、海の波を表す。中央に配した石は宝船を表す。初夏のサツキ、秋のモミジなど四季を通じて楽しめる名庭園。



36

ペレットストーブ (全域)

木質バイオマスを原料に木質ペレットを燃料とする。薪ストーブに比べ火力調節がしやすく、煙が少なく、火を消しても温かさが続く。化石燃料から転換を進める取り組みとして注目。

35

水口細工 (甲賀市)

かんぴょうとともに水口宿の名物として知られていた葛藤(つらふじ)の細工物で、デザインと精巧な細工で明治期には海外にも輸出されたが、1970年頃に途絶えた。復興の動きも。

34

甲賀木の駅 プロジェクト (甲賀市)

高知県のNPOが成功したシステムを甲賀でも実施。山に放置された木を運び出し、薪などに加工して販売。地域に眠る資源(木)を活用することで、地域エネルギー利用率を高め、地域も元気に。



湖東

37 能登川の水車 (東近江市)

メインの水車は、直径13メートルで関西最大。水車の歴史や技術について学べる水車資料館では、精米の実演も行われている。葦よしの繁る伊庭内湖では、レンタルカヌーやボートが楽しめる。

38 惟喬親王 (東近江市)

東近江の山奥、小椋は、木地師の発祥の地として知られる。蛭谷(ひるたに)にある木地師資料館は木地師の歴史や活動資料や木地製品を展示。君ヶ畑にある大皇器地祖(おおきみきちそ)神社は、木地師の祖として惟喬親王像を祀る。

©穀渚



42 埋木舎(彦根市)

彦根城内にある屋敷で、後に大老となる井伊直弼が十数年を過ごしたことで有名。直弼自身が名づけた。「世の中をよそに見つともうもれ木の埋もれておらむ心なき身は」という歌も残す。

41 彦根仏壇(彦根市)

起源は江戸時代の中頃。武器製作の技術を活かした地場産業。伝統的な工部七職(工程ごと)に職人が分業)で仕上げる。彦根城下から中山道は仏壇店が軒を連ね「七曲がり」と呼ばれる。

40 清涼寺のタブノキ (彦根市)

清涼寺の境内は、石田三成の家老、島左近の屋敷跡。タブノキはその頃からのものが。「清涼寺の七不思議」の一つとして、夜になると娘に姿を変えろという言葉も伝えも。

39 伊庭の坂下し祭 (東近江市)

毎年5月初旬に行われる「近江の奇祭」の一つ。織(きぬ)がさ山の頂から神輿3基を引きずりおろす。ごつごつした岩場の急斜面を、数時間かける。800年以上の歴史がある勇壮な祭り。

43 彦根城いろは松 (彦根市)

彦根藩二代目当主直孝孝公の時に中濠沿いに植えられた。いろは47文字と同じ47本であったことから、「いろは松」と名付けられた。害虫駆除のため、幹に巻かれる「こも巻き」は冬の風物詩。

44 彦根りんご(彦根市)

江戸時代文化年間に彦根藩士が200本植えたのが栽培の始まり。西洋種などに押されて絶滅したが、平成になって有志が復活した。和リンゴの一種で小ぶりて酸味がある。

45 木の机(彦根市)

「人」と「木」をつなぐ、株元レスたなかの木机は、手触りが良く、ぬくもりがあり、かつ美しい。間伐材や廃木材も含めた木の有効活用をめざし、県内の中学校の机や店舗で利用されている。

46 木造校舎(彦根市)

県立彦根東高校の特別教室棟は県立学校としては約50年ぶりの木造校舎。使用木材の約90%は県産のヒノキやスギで、廊下の天井部分はトラス構造で木材が良く見える。



49

飯盛木いもちぎ
(多賀町)

多賀大社のご神木で県内最大級のケヤキ。大きい方が女飯盛木、小さい方が男飯盛木。奈良時代、元正天皇の病氣平癒に使った杓子の余り木を挿したものが成長したと伝わる。

48

kikiito
(多賀町)

「びわ湖の森」を元気にする仕組み作り。地域木材を使って作られる文房具も。使えばみんなの思いが森林に返り、琵琶湖が育むたくさんいのちが元気に。



47

多賀のすだれ梁工法(多賀町)

5寸×6寸角材を金物で「すだれ」のように繋ぎ合わせて梁を作る独特の工法。昨年10月に完成した高取山公園の自然体験宿泊施設では、地元の杉やヒノキを70%近く使用。かまぼこ型の美しい仕上げとなっている。多賀中学校のランチルームも学校施設木造化の先進事例。

50

湖東三山の紅葉(愛荘町)

西明寺(さいみやうじ)・金剛輪寺(こんごうりんじ)・百濟寺(ひやくさいじ)を合わせて湖東三山という。飛鳥平安にさかのぼる歴史をもち、仏像や建物は多くが国宝や重要文化財に指定指定されている。屈指の紅葉の名所。

52

日野椀(日野町)

半製品を日野で完成させ、日野椀として全国に販売したのが日野商人の始まり。室町時代は日野城下の7〜8割の人々が漆器産業に従事したとか。手になじみ使いやすく、何より丈夫。

53

鎌掛のシャクナゲ(日野町)

県の花「シャクナゲ」が群生する日野町の鎌掛は古くから名高く、昔は茶店も出たという。高山植物だが低地に群生し、昭和6年度の天然記念物に指定。4月〜5月が見頃。

©霞粥



51

サルトリイバラの柏餅(愛荘町)

愛荘町では柏餅を柏の葉ではなく、サルトリイバラの丸みを帯びた葉でつつむ。東近江の水無月団子、多賀のぼんがら団子にも使われる。長浜では「がらたて」という。

後口上

今回も楽しく辿りました。滋賀の豊かな木々は目に美しく、空気をきれいにするだけでなく、私たちの生活にしっかりと根付いてあらゆる場面で活躍していたんですね。まだまだ滋賀には新しい発見を待っている「お宝」があるようです。

●しがのええもん五十三次
勝手に選定委員会II古くからの交通の要衝で東海道、中山道、北国街道など県内にたくさんはりめぐらされている街道にちなみ、滋賀県内のおいしいもの、素晴らしいものを自己流で選び、紹介する滋賀大好き集団。

④ M・O・Hインタビュー 〈暮らしやすさって? 「住」〉



四日市コンビナートに生涯をかけて未来を伝える寺本さん

会社人間から社会人間へ ポートビルから温故創新

てらもと さとし
寺本 佐利

コンビナート語り部の会

キラキラと幻想的に輝くのは工場から発するたくさんの光。ここ三重県四日市市には、コンビナートの夜景を船上から楽しむ「夜景クルーズ」があります。かつての公害問題から、ウミガメが産卵に戻ってくるほどきれいな海を取り戻した四日市市で、新たに「環境先進都市」をめざそうとさまざまな取り組みがされています。夜景クルーズの語り部をしている寺本さんにお話をうかがいました。

■四日市港ポートビル（三重県四日市市）

■2015年6月29日



いつでも語ります。このポロシャツが目印



〈暮らしやすさって? 「住」-④〉

工場の夜景が、今ブーム

日本でも有数の一大工業地帯、三重県四日市市。石炭の輸入や自動車の輸出、コンテナによる輸出入などを行う四日市港では、世界各国から毎日たくさんのお客さんが入港し、活気を見せている。お話を聞いた「四日市港ポर्टビルうみてらす14」からは、そんな工場一帯を一望することができた。

「環境先進都市をめざす四日市のありのままの姿を、多くの人に知ってもらいたいです!」

そう話す寺本佐利さんは夜景クルーズの語り部を務める「コンビナート語り部の会」の共同代表だ。元コンビナート職員が、ボランティアで、訪れたお客さんたちに四日市や港の歴史やコンビナートにまつわるエピソード、環境への取り組み、地場産品など、夜景以外の魅力も伝えている。

6年前からはじまった夜景クルーズは、船上から望むコンビナートの夜景と語り部による解説が話題となり、楽しみにやってくるお客さんは年間4000

人を超え、その約8割が市外から訪れる。大きなカメラを構えた写真愛好家、カップル、家族連れなど、コンビナートの夜景は年齢・性別関係なく見に来た人々を魅了する。

船はコンビナート一帯の中心あたりにある千歳棧橋から出港し、午起地区うまおこし、霞ヶ浦地区かすみかた、塩浜・石原地区などの人気夜景スポットを巡る。コースは、60分コースとじっくり時間をかけて廻る90分コースの2種類。毎回満員になるほどの人気ぶりだ。

公害を克服した街から発信

「四日市というと、公害の街と思われる方がたくさんおられることは事実です。公害認定患者の方が400名近くおられることも事実です。しかし足元を見ればホタルが飛んでいます。その先に夜景が見えます。潮干狩りや釣りもできるようになりました。私たちはこのような貴重な環境と旺盛な産業力を後世の人たちに引き継いでいく義務を背負っています」

夜景が美しい。若い人たちにも人気が高い (提供: 四日市観光協会)





1

2



3



4





5

① 全景がわかるジオラマ ② 四日市港ポートビル ③ 気さくに話しかける姿はまさに語り部 ④ 四日市港の歴史が学べる ⑤ 環境と調和した絶えることのない明かり。この夕景を見て未来を語るカップルも（提供：四日市観光協会） ⑥ ものづくりから公害を克服し宇宙の可能性を拓く。コンビナートの可能性は大きい

6



46



当初は、公害反対運動や、いまだ苦しんでいる公害認定患者さんのことを想い、夜景クルーズの開催に反対していたという寺本さん。しかし、良好な環境を取り戻した今の四日市の姿を知ってほしい、四日市子どもたちに、自分の街が「環境先進都市」であることに誇りを持って育ってほしい……そんな想いから「伝える」役割を果たそうと考えた。

企業戦士として働いた 会社人間時代

四日市コンビナートは、日本で初めて形成された石油化学コンビナート。1959年に第1コンビナートが、1963年には第2コンビナートが本格稼働した。

寺本さんは1965年に18歳で第2コンビナートに就職。時代は高度経済成長期。煙突から勢い良く吹き出す煙は経済発展のシンボルだった。ところが工場近隣の住民が次々と呼吸器疾患にかかっていく。亜硫酸ガスによる大気汚染が原因の「四日市ぜんそく」だ。

「当時は良いことと信じて経済活動をしていました。しかし、周辺住民や海の生物たちを苦しめていたことに気づいた」。裁判は原告の住民が勝訴しましたが、被告側の大企業は控訴しませんでした。判決は『企業は身体生命に影響を及ぼすものを排出するときは採算を度外視してでも防止しなければならぬ』とわかりやすいもの。これを機に国において大気汚染法などができた訳ですが、それまでは法の規制がなかったのです」

第3コンビナートは裁判が結審されてから造成された。各会社から排出される煙を一カ所に集め、脱硫装置や脱硝装置にかけて外に排出するしくみができた。排水も一カ所に集めて処理をしてから海へ排出するようになった。

実は、裁判がはじまって一番変わったのは市民の意識だと寺本さんは言う。市民が自ら住む街のことを考え、このままではいけないと、変えるための行動を起こしたことで、市民、企業、行政が一体となり、きれいな空や海を取り戻したのだ。

環境先進都市をめざして

四日市市には、四日市港100周年を記念して建てられた「四日市港ポートビル」や今年3月に設立された「四日市公害と環境未来館」があり、歴史と未来への希望を発信している。寺本さんは、こうした施設で地元企業や大学および地域の仲間たちと『子ども科学セミナー』や『子ども環境フェア』にスタッフとして参加している。

「四日市子どもたちに『大人になったとき、どんな四日市になってほしいですか?』とアンケートをとったとき『公害のない街』という答えが大多数でした。セミナーなどのイベントを通して、四日



四日市里山クラブの活動も
(提供:美里けんじ)





夜景クルーズをひとりでも多くの方に…「7つの顔を持つ男になりたい」寺本さん

市はものづくりの街なんだよ、公害を克服した街なんだよ、四日市から宇宙へと、子どもたちがもつと誇りに思える街にしたいですね」

きこり体験や貝がらストラップづくりなど、体験を通して楽しみながら伝える工夫をこらしている。

「社会人間」として伝えたい

「もつたいない・おかげさま・ほどほどに。これは学校では教えられなかったけど、昔からおばあちゃんやおじいちゃんによく言われたことだなと思いました。私は祖母から、海の貝は採りすぎちゃいけないよ、と『足るを知る』ことを教わった。自然に対する畏敬の念や感謝の気持ちも日頃からしつけられた。お金や物が尺度の風潮は、会社のため、家族のためと頑張っ、物質的な豊かさを手に入れてきた我々団塊の世代の象徴です。成長から『成熟』した社会の中で立ち止まり考えることが必要だと思っております」

企業戦士として「会社人間」で生き

てきた寺本さんは、第2の人生を「社会人間」として、四日市の環境と観光の発展につながる生き方をめざしたいと語る。パワーあふれる寺本さんのもとで、次はどんな発信がされるのか楽しみだ。

あるものを活かす
無きものをつくる

寺本 佐利

● ちらも(さこ) 1947年四日市生まれ。四日市商業高校を卒業し、四日市のコンビナートに就職。定年まで東京21年・四日市21年の合計42年間コンビナートで働く。2011年4月から2015年3月まで、四日市大学の社会連携・就職のアドバイザー。現在は多数のボランティア活動に励む。

○ 四日市コンビナート夜景クルーズ専用デスク
TEL: 059-347-7177

http://ykvc.jp

○ 四日市港ボートビル

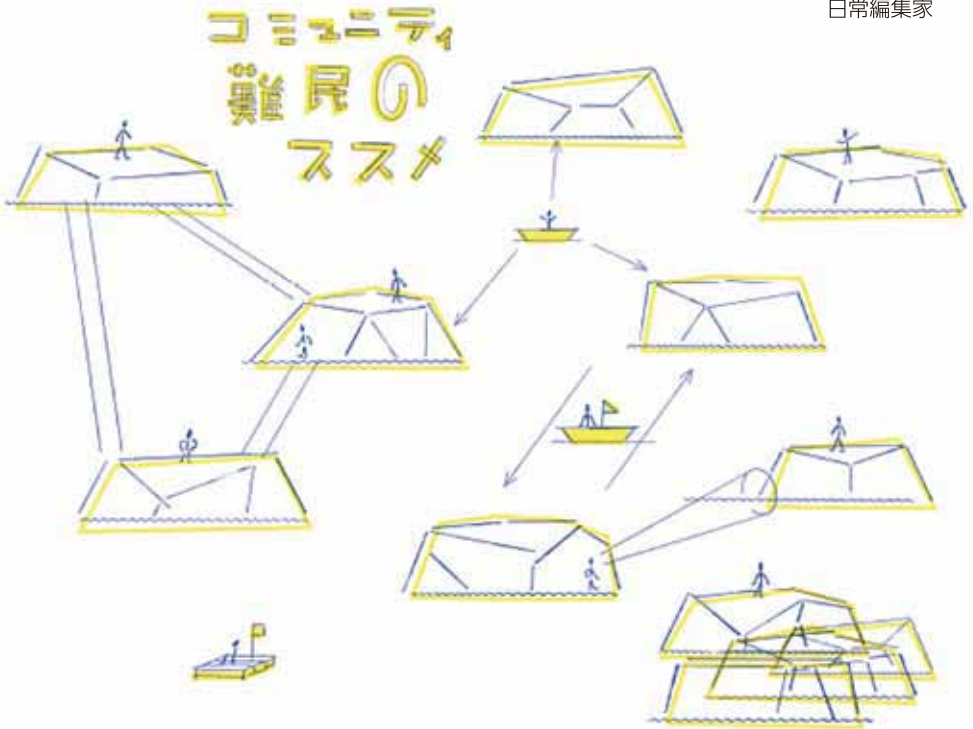
三重県四日市市霞2丁目1-1 (四日市港管理組合)
TEL: 059-399-7022

http://www.yokkaichi-port.or.jp

コミュニティ難民

アサダワタル

日常編集家



滋賀県には若者が多く集まるようになってきた。音楽イベント、食のイベント、芸術のイベントなど、さまざまな分野と領域で都会の若者が語り合い笑い合う。彼らの想いを知りたいな、と思った。そこで今、活躍中のアサダワタル氏に寄稿で語っていただいた。

M・O・H通信をお読みの皆様こんにちは。滋賀県大津市在住のアサダワタルと申します。「表現と日常」あるいは「芸術と社会」といったことをテーマに、文筆、音楽、場づくり、大学講師など、様々な仕事をしております。昨年の12月に『コミュニティ難民のススメー表現と仕事のハザマにあること』（木楽舎）という本を出版しました。今日は少しの『コミュニティ難民』という言葉について、自己紹介を絡めながら綴りたいと思います。まず皆さんの周りに少しは思い当たるであろう、「この人は一体何屋さんなんだろう?」という人について少し想像していただきたいのです。



僕はこれまで特定のひとつの職業として、はつきり「何屋です」ということが言えない状態でこの十数年仕事をしてきました。仕事をしている誰もが、「自分は「こ」に所属している」「ホームだ」と言える領域や分野、あるいは業界や物理的にも所属している会社や組織などが多少なりともあるだろうと思います。この「領域・分野」みたいなことをその人が帰属している「コミュニティ」と捉え、かつそのコミュニティを「島」で喩えてみました（イラスト参照）。

僕の場合で言えば、まず最初に芸術文化といった「島」で「表現活動をちゃんと仕事にしていこう」と思い至った時に、一筋縄ではいかず、福祉という「島」に「船」を出して行ってみる、みたいなことがあります。ここには障がいがある方や、認知症になっている高齢者がいたりする。こういう方たちと一緒にどんな表現活動ができるかと思ってある時、試しに様子を見に行く。でも、上手くいくときもあれば、唐突すぎて、その「島」の人に怪訝な表情をされたりもするわけです。また

ある時は、例えば学校教育のなかで、何ができるんじゃないかなと思って学校の先生や親御さんと協力しながら何かをするみたいなことがあったりする。その「島」が時にはまちづくりと言われるものだったり、都市計画や住宅政策という「島」だったり。でも、当然、どこでもよそ者として、その「島」を漂泊しながら様々な協働を通じてありがたい経験をさせてもらってきたんです。

もちろんそういった働き方に一足飛びになつたわけではありません。僕にとつてこの「表現」と「仕事」を混ぜ合わせるキャリアのきっかけは24歳の時に訪れました。それが「アート系NPOに就職する」という道でした。ここは、大阪の○○○○○○（僕が現場にいた2003年〜2006年あたりは浪速区新世界を、現在は西成区釜ヶ崎を拠点）という団体です。新世界では経営不振に陥った遊園地の空き店舗を活用してカフェ兼舞台スペースを設け、ライブや演劇の企画をしたり、カフェで定食を作ったり。カフェがあることで、文化芸術と言った「見取っ

付きにくそうなことを抜きにして、近隣に住む・働く人たちが珈琲やお酒を飲みに来てくれました。そこで出会った人々のなかには、隣街の釜ヶ崎で日雇い労働をしていたりとか、生活保護をもらっているおじさんたちもいました。釜ヶ崎というのは、ご存知のように社会福祉的に、治安的に問題山積みの街だというイメージで語られてしまう。おじさんたちは十把一絡げに、こわい人たち、駄目な人たちとされてしまうのです。でも、当然のことながらひとり一人別々の人生を持った人達なんです。なかには自分で小屋を立てて詩集を売っている人がいたり、70歳を超えて生活保護を受けながら福祉マンションで余生を過ごしながら、とてもユニークな紙芝居をつくっているグループがいたり。詩人のおじさんにしても紙芝居にしても、荒削りながらも型にはまらない表現だったり、福祉的っぽいイメージだけではなくて表現そのものが本当に斬新で実に面白かった。彼らとの協働から起きたコミュニケーションから、「支援する／される」といった関係では語れない、僕らスタッフもおじさんたちも同じ



「表現者」という土壌に立ちながら、そこから「この表現で今の社会にどんな問いを投げかけられるか」という方向性が見えてきたんです。

2006年以降、僕は文化事業を積極的にやるようになった。寺院のスタッフとして大阪市文化事業のディレクションに関わったり、ホームヘルパーの資格を取り障がいのある方と行う表現活動を模索したり、大阪市港区のまちづくりに関わる様になりました。その頃、僕の以前からの活動を知る周囲の人達からは「芸術やめて、社会運動をする人になったんだね」と結構言われました。でも、僕の中ではあくまで「表現活動の一環」で、面白いと思えるからこそ多様な〈島〉との協働があったんです。僕は「あなたがしたいのは芸術なの？それとも地域活動なの？」みたいなことを言われながらも、表面上の職業や肩書きに縛られず、とにかく「表現」を触媒にしなが、様々な領域に横たわる。ぶつう「を編集し、人と人の関係性を風通しよくすること」を自分の仕事と定めて、2010年以降フリーになり

ました。そして2012年に、様々な縁に導かれて滋賀県に移住をしました。現在は、近江八幡市にあるポータレス・アートミュージアムNOMAの運営に携わり、滋賀県の「美の滋賀」プロジェクトのコーディネーターなどとして活動させていただいています。

いろんな〈島〉に渡って行っっては面白い人と繋がる。時には引き返すこともあるけど、また出会い直すこともある。こうやって専門性をどんどん脱ぎ捨てていって、〈島〉と〈島〉とを橋渡しする。一つの肩書を名乗らないからこそ、生み出せる仕事やネットワークだってあるのではないか。「コミュニティ難民」という言葉は、その時々僕が味わった体験に基づき、サバイブしてきた強さよりはむしろ困ったこと、理解されなくてうまくい結果が出せなかったこと、仲間を失ったりなかなかこの〈島〉も入れないといったどちらかと言えば「弱さ」にこそ焦点を当て、だからこそ、あえてとてもデリケートな「難民」という言葉を使おうと思いました。「難民」になるんだけど、

だからこそ〈海下〉の絶景も見る事ができる。そして、〈海〉を見渡せば実際に、僕と近いような動き方を実践してきた仲間たちと出会えたんですね。滋賀県での仕事も含めて、コミュニティ難民だからこそできる創造的なネットワークをこれからも模索していきたいなと思っています。

遠べ力だけで

逃げていく

その先へ!!

アサダワタル

●あさだわたるは日常編集家。1979年生まれ。日常に溢れている常識を少し〈ンテコ〉に風通しよくする一連の創作に勤しむ。著書に『住み開き』（筑摩書房）、『コミュニティ難民のススメ』（木楽舎）など。滋賀県では、ポータレス・アートミュージアムNOMA懇談会委員、滋賀県「美の滋賀」アドバイザーなどを務める。



とち餅

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

このところのお気に入り、坂内村(現在の岐阜県掛斐川町)のとち餅。長浜市木之本町金居原から国道303号の八草トンネルを抜け、車で数分の山峡の万屋で売っている。旅先で買い求めることもあるが、この味にはかない。二歳の孫娘も「お餅は、お餅は」と、おねだりするほど大の好物だ。

ど大の好物だ。

枯茶色の切り餅で、六個が一つの真空パックに入っている。オーブントースターで焼き目を入れて、醤油と砂糖をつけて食べると、ほのかにとちの香りが口いっぱいに広がる、この食味がたまらない。

市販されているとち餅のほとんどは、色合い、風味とも薄くなりがちであるが、この山里のとち餅は、共に濃い、深い。餅の表面にとちの実の

薄皮とおぼしき焦げ茶色の斑点があり、いかにも手づくりといった感じがする。

かつては、米がほとんど取れない県北の高時川源流域や県境の坂内村周辺では、とちの実が貴重な食料源であった。むかしは、どこか家庭でもとち餅を作っていたらしいが、今日ではほんの僅かしか自家製はないと、店のおやじは話す。

高齢化が進み、とちの実を拾いに山へ入る人が少なくなるとち餅にするまでには、大麥な手間ひまがかかるためだという。手間ひまを考えたら採算割れだが、この地に伝わる食文化を消さないためにがんばっている、笑った。とち餅の出来具合は、とちの実やアク抜きの灰の良し悪しで決まるといふ。

そういえば、近江名物の鮎ずしも同様に、作るのに相当

の技術を要し、手間がかかり、作ってから食べるまでに、また日にちがかかる。どちらも作る人の思い入れが風味となつて、直に出る珍味である。

本曾のとち浮世の人の

みやげ哉

芭蕉

栃餅も切符も売って山の駅

木々朗

三山 元暎

●みやまもとあき1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市との合併にともない退任。真宗大谷派真勝寺前任住職。

悠々自適

中川 善雄

●なかがわ よしお1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。



会場は満員御礼。27日の対談風景

M・O・Hレポート
 参加しました!

ソーシャルファーム ジャパンサミットinびわこ

■日 時 / 2015年6月27日(土)、28日(日)

◆1日目

●会 場 / 琵琶湖ホテル

●スケジュール /

- 13:00 ~ 15:00 <<記念講演>>『仏ジャルダン・ド・コカーニュが取り組む未来への挑戦』
- 15:15 ~ 17:00 <<対 談>>『ヨーロッパの実例から日本のソーシャルファームを考える』
- 17:00 ~ 18:00 <<報 告>>『ソーシャルファームデザインの活用』
 『ソーシャルファームジャパン会員実践報告』

◆2日目

●会 場 / ピアザ淡海

●スケジュール /

- 9:30 ~ 10:15 <<講 演>>『日本における農福連携と六次化成功の実例報告』
- 10:25 ~ 12:00 <<シンポジウム>>『ソーシャルファーム実践報告 先行事例から未来のソーシャルファームへ』
- 12:10 ~ 16:00 <<ソーシャルファーム農場見学会>>
 - コース① 『自然栽培圃場』見学 NPO 法人縁活 おもや
 - コース② 『水耕栽培と松茸農場』見学 社会福祉法人 美輪湖の家 マノーナファーム&資生園株式会社

■主 催 / 第2回ソーシャルファームジャパンサミット in びわこ実行委員会
 ソーシャルファームジャパン



就労困難者支援の仕組みを デザインする

ソーシャルファームとは、障がいのある人や高齢者、シングルマザー、引きこもり、ホームレスなど、労働市場で不利な立場にある人々に働く場を提供することを目的とした、社会的企業のことだ。似たような言葉にソーシャルビジネスがあるが、ソーシャルファームは、ビジネスで社会的課題を解決するソーシャルビジネスのカテゴリーの一つに位置づけられる。1970年代末にイタリアではじまったのを機に、今やフランス、ドイツ、韓国など、世界各国で広がりをみせている。

日本のソーシャルファームに 必要なことは？

2015年6月27日、28日の二日間、就労困難者支援の仕組みを講演や実例報告を交えて紹介し、雇用創出の可能性と課題を検討する「ソーシャルファームジャパンサミットinびわこ」が天津

市で開催された。

27日の記念講演で登壇したジャン・ギイ・ヘンケル氏は、現在フランスで最大規模のソーシャルファーム「ジャルダン・ド・コカーニュ」の創設者だ。2015年現在フランス全土130カ所ので4000名の雇用を生んでおり、環境重視型の持続可能な農業を実現している。フランスでは国が民間企業や一般市



「買う→伝える→訪れる」消費行動がカギ

民と連携して「社会連帯経済」が成り立ちはじめていることを説明し、参加者からはその具体的な仕組みについて関心が寄せられた。またフランスでかつて財務大臣・経済産業大臣などを務め、現在「フランス・アクティブ」というNPO団体の代表を務めるクリスチアン・ソテル氏もスペシャルゲストとして登壇。「社会連帯経済」をつくっていく中で、企業家を見つけて出すことと資金確保の仕組み作りの重要性を語った。

28日には、午前「農福連携」の実践や滋賀の先行事例についての講演があり、午後にはソーシャルファーム農場見学会などの現地視察が行われた。現場の生の声を聴く貴重な機会となったようだ。二日間の参加者は延べ530人。今後、日本での更なる発展をめざし、ソーシャルファームを担う企業家の育成や仕組み作りなどが期待される。



実行委員会に加盟する、がんばカンパニーの手作アイスーツ

山暮らし子育て日記

作: 芥川ミチ子

前の家よりも部屋が
広くなり、

これを記念？として、
またたびの会を結成！！

ほとんど便所↓水洗便所
になった。オノニキキの家。

ビ言でも、子育て中の
お母さんたちが集まって
おしゃべりする会です。

お昼は持ち寄り。

以前からよく集まっていたメン
バー

だから結構、ごきょうに
なっています。

さらに料理の話にも
花が咲く。

これどうやって
作るの〜？

カンタン！
ごま油で
小麦粉の粉が
ポイント！

話題の中心は子去月て
のこりだが...

こんな話も出る。

午のダンホ
コレコレこうです...

世の中のダンホさん
気をつけてね！！

なんせ近所に家がばない
から...

大きな声で笑ったり騒い
たり、グチャッたりできる。

そんなある日

あ、この
原まか防蚊
について
教えてほしいのですが、
高島市に相談

すると、
10人以上集まれば、
出前講座も
しますよ。

またたびの会 原子力
防災おしゃべり会を
企画

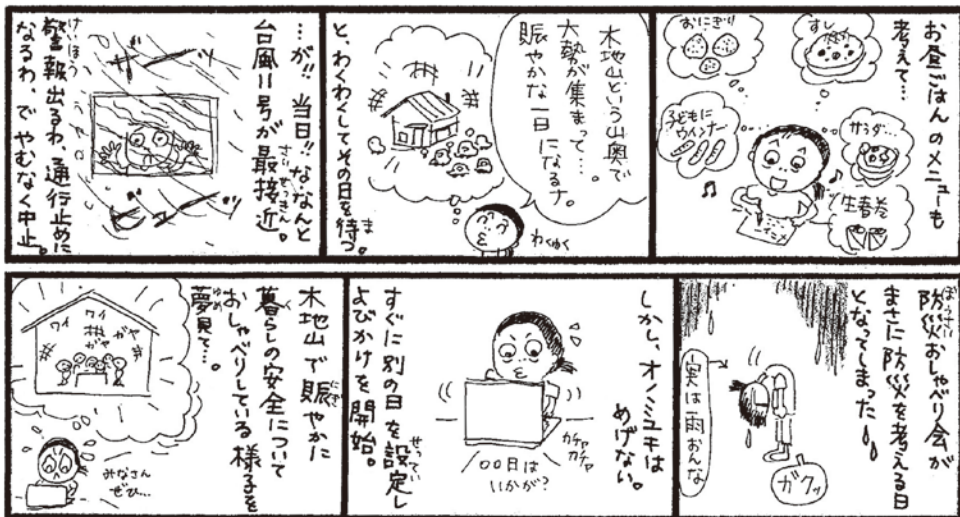
参加者が集まった。

老若男女、17人もの
参加者が集まった。

子ども連れでも参加
できるようにビニール
を用意。

スーパーボールを
うがべおいたか。





● オノノキ氏のプロフィールは26ページ

「思うように行かないこともある〜」
 (張り切って準備してもその通りに「ト」が進むとは限らないから、
 落胆しないように自分に「こう言い聞かせています。)

オノノキ 今号のひとこと

月二回程、子育て中のお母さんたちと集まる「またたびの会」。由来は、自宅周りに私の好きなマタタビが生えているから、という単純なものでも「存じの通り、マタタビの由来は、実を食べると元氣になり「また、旅に出る」から。なので、「またたびの会」でおしゃべりして発散し、元氣になってまた家に帰って頑張る、という意味も含めました。マタタビの葉は、6〜7月頃一部の葉が白くなります。これを目印に虫が寄って来て葉の

下に咲いている小さな花の蜜を吸います。そんな可憐な(?)も私がマタタビの好きな理由です。
 さて、延期になった「原子力防災おしゃべり会」では、子育て中の親が、いざという時のための避難経路や備え、都会とは違う防災対策などを高島市の職員さんに話してもらうつもりです。この通信が届くころには実現できていることでしょうか。
 (その後、無事に「またたびの会」を実施できました!)

鹿の眼・人間の眼

武部 治代



そのむかし大台ヶ原の山奥で偶然出会った鹿の端正な姿、網走の山里で目の前を横切り、一瞬佇んで振り返ったエゾジカの立ち姿の際立ち。車道脇でつぶらな瞳を見開いたまま息絶えていた仔鹿。奈良公園で悠悠と遊ぶ鹿の、のびやかさ。なぜか気がかりな鹿はたえず私の身のまわりに現われる。とりわけ涼やかな鹿の眼に惹かれてきた。幼い頃、古里（廃家）の離れ座敷の襖絵は四季の鹿で連なっていた。いつも何頭もの視線を浴びていた。強く惹かれるのはその所為なのだろうか。

数年前、家族でびわ湖バレイにハイキングに出かけたことがある。蓬萊山頂のなだらかな広い斜面一帯、鹿のフンが驚くほど黒く散らばっていて、晴天下に風が起きると灰かに匂いが漂ってくるのだった。姿はない。棲みわけてどこににいるのだろうか。夜になると数百頭もの群れが集まるのだと山の管理人は言った。きっと壮観だろう、私は



想像をたくましくする。スロープを占拠する鹿の群れ。奇しき眼光が点点と闇の空間に浮かび、眼下には夜の琵琶湖が見えるか見えなしか黝い湖面の静まり。たむろする夜行性動物と原始の世界の展望が脳裏に浮かぶのだった。

しかし現実に戻ると問題は切実で厳しい。年年ニホンジカの個体数が増え続け、日本中で被害が大量発生し、被害が著しいと新聞、TVでとりあげられる。森が壊されていくという。すでに二〇二年当時で、〈シカ山を食べ尽くす〉(二〇二一年八月二四日朝日)の见出しが出るほどの勢いで異常繁殖している。なお、〈今後の五年間〉で、シカが増える前の一九八〇年代の生態系に戻すのだとの環境省の言も載ったが、それどころか現在ますます増え続けているのはなぜだろう。原因はいろいろ挙げられてはいるが、もどかしい話である。解決には積極的な捕獲や食用資源としての普及などが語られている。一方、”も

の言わぬ四方の獣”にも言い分はあろう。人間も、野生動物も一生懸命生きている。

人間は自然にあまりに逆らいついでいる。人間が歪めてしまった自然界、追われる鹿。彼らの棲息域を壊してきた一端は人間側にもあるのではないか。それ故に森の木が傷められ、農作物にも多大の被害が及び、最近列車との衝突事故さえ増えているという。幾多の見過ごせない切迫した問題を抱えてきている。

古代から人間との関係の深い鹿が嫌われ者になり害獣扱いされ、目のかたきにされているのは口惜しくもある。近年、鹿に並んで猿、猪、熊など、人間との関係がややしくなっているのは深刻であり、残念に思われる。

武観 部法代 自在

● たけへ はるより和歌山県生まれ。各地転居、現在滋賀県人として最も長い年月となる。滋賀県市民と自治研究センター、月刊『市民と自治』編集委員、のち親しみやすいタイトル『ヒーブルプレス』と改名、1993年8月終刊。その後大津市文化祭実行委員会『湖都の文学』編集委員、滋賀県文学会理事、県文学祭詩部門選者を経て現、滋賀・九条の会事務局所属。大津市文化賞、滋賀県文化功労賞受賞。

日本現代詩歌文学館評議員。近江詩人会会員、日本現代詩人会会員。詩誌『ふが』(乾河)同人。

著書/詩集『くろ船力オス』『ふりむこつとしない鹿』『鳥は靴をはかない』『エッセイ集『犀の色』『赤い木の馬』。

本の紹介

BOOKS

最近入手した、気になる本・CD・DVD
をご紹介します。

中小企業が生きる道
もつたない・おかげさま・ほ
ちもつたない



- 著者／森建司
- 発行／サンライズ出版
- 発行日／2015年7月30日
- 価格／900円＋税
- 内容／弊誌代表・森氏の新刊。中小企業が生き生きと輝いていく道とは、「もつたないなら」「おかげさま」「ほどほどに」をキーワードに、持続可能な社会を実現するために取るべき道を説き、大企業ならではの経営理念を示す。M・O・H通信誕生の歴史も紹介。

月3万円ビジネス100
の実例―ワイワイガヤガヤ愉
みながら仕事を創る―



- 著者／藤村靖之
- 発行／晶文社
- 発行日／2015年7月30日
- 価格／1500円＋税
- 内容／ロングセラー『月3万円ビジネス』の続編。仕事づくりは、仲間づくり。スモールビジネスの複業だから、愉しくできた！100の実例を紹介。

岡本太郎、信楽へ
信楽焼の近代とその遺産



- 企画・編集／信楽焼振興協
議会
- 発行／サンライズ出版
- 価格／1500円＋税

内容／岡本太郎は、信楽と縁深い関係にあった。信楽と太郎との焼き物を通じたつながりを、陶産地の歴史をひも解きながら明らかにする。「太陽の塔」の背面にある「黒い太陽」など信楽で生まれた岡本太郎の作品についても関係者への取材から多面的に取り上げる。

おいしい琵琶湖八珍
文化としての湖漁食



- 編集／滋賀県ミューシウム
活性化推進委員会
- 発行／サンライズ出版
- 発行日／2015年2月15日
- 価格／1800円＋税
- 内容／琵琶湖を代表するビワマス、ユコロフナ、ハスホンモロコ、コアユ、イサザ、ピワコシノボリ、スジエビを「琵琶湖八珍」として選定。その魚の生態とレシピ、文化としての湖魚食について興味深い話を紹介。

のさらん福は願ひ申さん
柳田國男「後狩詞記」を腑分けする



- 著者／飯田辰彦
- 発行／みやまき文庫
- 発行日／2015年6月1日
- 価格／2300円＋税
- 内容／『後狩詞記(のちのかりことばのき)』を紹介し、百年前の柳田國男のメッセージと現代の獵師との対話を綴る。

農家が教える手づくり加工
保存の知恵と技



- 編集・発行／農山漁村文化
協会
- 発行日／2015年8月20日
- 価格／1400円＋税
- 内容／農家の保存食や加工食品のつくり方を、暮らしがりと併せてまとめる。



講演日記

6月～9月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

能登川南小学校
総合的な学習における
出前講座



- 日時：6月24日
- 場所：能登川南小学校
- 講師：辻村耕司、辻村琴美
- 演題：「プロに学ぼう！新聞づくりの極意」
- 対象：5年生
- 参加：約100人
- 内容：新聞づくりに取り組む児童にタイトルの付け方、見出しの付け方を伝えた。

滋賀県立大学
市民参加論



- 日時：7月24日
- 場所：滋賀県立大学
- 講師：森建司
- 演題：「持続可能社会の扉を開く市民参加」
- 対象：1回生
- 参加：約40人
- 内容：今、必要な市民参加とは、市民の価値観とライフスタイルを変える勇氣を持つことだと話した。

金沢大学
社会教育主事講習

- 日時：7月30日
- 場所：金沢大学

- 講師：奥野修、本田明、小島なぎさ、辻村琴美
- 演題：「フアシリテーター・コーディネーターの役割」
- 対象：受講生
- 参加：20人
- 内容：環人ネットが講師を務めた。受講者からは「フアシリテーターの考え方が変わった」との声が聞かれた。



- 日時：7月31日
- 場所：北ビワコホテルグライエ
- 講師：森建司
- 演題：「長浜東RCNクラブ例会卓話」

- 講師：奥野修、本田明、小島なぎさ、辻村琴美
- 演題：「フアシリテーター・コーディネーターの役割」
- 対象：会員
- 参加：約50人
- 内容：森氏が作詞した『友と集いて』について、曲がつくられた経緯と想いを語った。

長浜伝統産業館「和の仕事」オープン挨拶

- 日時：8月2日
- 場所：長浜伝統産業館
- 挨拶：森建司
- 内容：開館を記念して、長浜の発展を願うメッセージを送った。

びわ湖会議

- 日時：8月22日
- 場所：コラボしが21
- グループディスカッション進行役：辻村琴美
- テーマ：「情報発信でつながるびわ湖と市民」
- 対象：一般参加者
- 内容：情報発信の側面から、びわ湖を守る活動を考えた。

世界の幸福の国から

- 日時：9月5日
- 場所：曳山博物館伝承館
- 講師：森建司
- 演題：「M・O・H（もうたない、おかげさま、ほどほどに）。自立型地域社会を目指して」
- 対象：一般
- 参加：約120人
- 内容：福井県にあるブライタニコミュニティアム代表、野坂弦司氏とともに登壇した。

講演スケジュール

光王殿最勝寺講演会

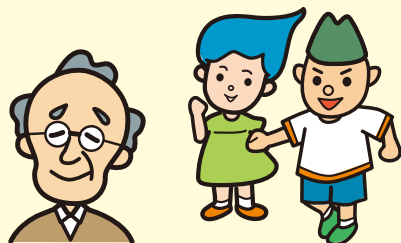
- 日時：11月8日
- 場所：最勝寺
- 講師：森建司

長浜市南浜町黎明会講演

- 日時：11月20日
- 場所：南浜町公民館
- 講師：森建司

M・O・Hせんりゅう♪

たくさんのご応募
ありがとうございます。



滋賀県立大学 環境科学部1回生の作品

♪もったいない まだ使えるよ なせ買うの
♪もったいない 買いきるのは やめようね
♪もったいない エコ生活への 第1歩
♪使つとは コミをやむを得ない ほぼほぼに
♪もったいない その一言で 変わるはず
♪やりすぎず もったいないも ほぼほぼに
♪もったいない 蛇口がちゃんと しまってるない
♪こんには 日々のあいさつ 大切に
♪おかげさま みんなで言うと 幸せだ
♪捨てる前 まだ使えるか 考える
♪眠たいが 授業で寝るのは ほぼほぼに
♪ほぼほぼに 1年続けりゃ 大したもの

♪もったいない そう思ったら リサイクル
♪おかげさま 離れた両親 ありがとう
♪もったいない もうやめようよ むだづかい
♪楽しい日 びわこ人の おかげさま
♪もったいない 夏場のクーラー ほぼほぼに
♪ほぼほぼに 1日一歩 がんばろう
♪よく考えて まだまだ使える もったいない
♪感謝する 素敵な事が 笑みのもと
♪口ぐせは もったいないから 使おうよ
♪もったいない その心もち 捨てないで
♪飲み会は 楽しいけれど ほぼほぼに
♪もったいない 残さずせんぶ たべようね
♪M・O・H通信 おかげさまで 10周年
♪おかげさま 感謝の気持ちを 忘れずに
♪おかげさま 心に花を 咲かせましょう
♪もったいない すぐ捨てるのは やめましょう
♪ありがとう 感謝の言葉で よい関係
♪飲み会の お酒の付き合い ほぼほぼに
♪知らない 滋賀の魅力を 知りたいな
♪いただきます 感謝の気持ち 忘れずに
♪もったいない 無駄なく暮らす コミをがけ
♪ほぼほぼに 無駄な時間は もったいない
♪もったいない 水を使うのも ほぼほぼに
♪大学生 遊び過ぎるのも ほぼほぼに
♪意志をもって お酒にたばこ ほぼほぼに
♪もったいない 地球の未来を 大切に

能登川南小学校5年生の作品

♪もったいない 自分の力 出さない
♪もったいない はれているのに 家あそび
♪もったいない 水の出しすぎ 止めないと
♪エアコンを けしていいよ もったいない
♪ほぼほぼに 足りなくていい がまんしよう
♪食べ物 食べなければ もったいない
♪おかげさま 今の自分は 家族から
♪もったいない 水の使いすぎ ほぼほぼに
♪むだづかい やりすぎるの ほぼほぼに
♪ほぼほぼに ゲームは1日 いちじかん
♪寒いじき こたつに入って ぽかぽか
♪まだやれる すぐにすてるな もったいない
♪やめようよ ばいすてるな あほんたれ
♪もったいない 給食のゴミず 食べようよ
♪もったいない 楽しもうれしさを ひようじようで
♪すずしくなったら もう消そう
♪ミニミニと いまわらわなきや もったいない
♪ミニミニでも コミはすてずに かんきようほぼ
♪おかげさま あなたのおかげで 町きれい
♪山路川 みんなで守ろ きれいにね
♪はんつが ちゃんと食べなきゃ もったいない
♪ほぼほぼに 夏の長ぶろ のぼせずに
♪あいさつを 毎日元気な がんばろう
♪おそうじで 毎日ピカピカ おかげさま
♪にんげんは 努力しないと もったいない



♪もったいない エコとせんとを たいせつに
 ♪ゴミすては かわにはすてず ゴミばんに
 ♪もったいない 金があるのに なにもつかわず
 ♪あいさつは しっかりしよう もったいない
 ♪いつまでも なかまのきずな 大切に
 ♪残ってる きみがやったの もったいない
 ♪もったいない ゴはんつぶは のこさない
 ♪もったいない あなたの考え すてきです
 ♪もったいない マ飯を残すと 作りムダ
 ♪ありがとう だれかのおかげ おかげさま
 ♪風々はん 残飯あるの もったいない
 ♪おかげさま いろいろなこと 分かったよ
 ♪おさけはね いつもはまじに うんどうだ
 ♪かぜひくよ プールのやりすぎほどほどに
 ♪練習も やりすぎないで ほどほどに
 ♪もったいない ふくろひとつに 木がひとつ
 ♪おかげさま 親がおつて えだつてく
 ♪お酒と タバコのすいすぎ ほどほどに
 ♪もったいない ゲームのしすぎ 目にわるい
 ♪買ったもの すぐにあきるの もったいない
 ♪ちよつども ャはんのすの もったいない
 ♪3R それをしないと もったいない
 ♪もったいない 才能使お 全かに
 ♪もったいない つかいすぎるな お金をね
 ♪もったいない いらぬものに かねつかう
 ♪ゲームを やりすぎず ほどほどに
 ♪それはダメ 滋養をよますの もったいない

♪もったいない つくったせんにゆうよまなご
 ♪お母さん 仕事やりすぎ ほどほどに
 ♪つかいすぎ もったいないよ ほどほどに
 ♪お父さん 夜ふかしするの ほどほどに
 ♪もったいない タバコをすうと かねのむだ
 ♪もったいない 滋養のいいこと 知らないの
 ♪メダカには えさをやりすぎ ほどほどに
 ♪おかげさま いろいろなことを 分かったよ
 ♪テレビやゲーム やりすぎはダメよ ほどほどに
 ♪一時間も テレビを見るのは ほどほどに
 ♪争うと 人の命が もったいない
 ♪お母さん 近所としやべるの ほどほどに
 ♪使えるよ ゴミのポイすて もったいない
 ♪もったいない びわ湖のことを しらないの
 ♪けしゴム ポイすてせずに またつかおう
 ♪給食が ざんぱんのこつて もったいな
 ♪もったいない 滋養の自然を 見つけよう
 ♪がんばつて あいさつしなきゃ もったいない
 ♪もったいない きれいなさくらが ちつている
 ♪もったいない 紙きれすぐに すてないで
 ♪もったいない 喜ぶ楽しさ 知つておんな
 ♪おかげさま 今のふでは 3年目
 ♪もったいない 花がちるのが もったいない
 ♪もったいない ゴミはかならず リサイクル
 ♪おかげさま 10年たつたら 20さい
 ♪大好きな あまにおやつは ほどほどに
 ♪ほどほどに じてん車での たびに出る

♪ほどほどに みずの使いすぎ 気をつけよう
 ♪運動を がんばりすぎず ほどほどに
 ♪もったいない 心がぎすつく その一言
 ♪お手伝い がんばつてるね おかげさま
 ♪もったいない エコスルーだよ 南小
 ♪口開け あいさつしないの もったいない
 ♪むだづかい もったいななこと してないか
 ♪もったいない むだづかいは ほどほどに
 ♪すてないで びわかにみも もったいない
 ♪おぶさけは ほどほどにしよ おねがいね
 ♪くすの木の 百年生きて おかげさま
 ♪もったいない 全世界の 共通語
 ♪もったいない いまあるものを 大切に
 ♪もったいない たんきよりいどう 自てん車で
 ♪もったいない へやの電気は 消していこう

2015年10月21〜23日、長浜ドームで「びわ湖環境ビジネスメッセ2015」が開催されます。今年も新江州プースに「M・O・Hせんにゆうコンテスト」を実施予定。読者の皆様から応募いただいた1年分のせんにゆう211作品の中から、1次審査、2次審査を突破した上位10作品をプース内に展示します。その10作品の中からご来場頂いた方々の投票によりベスト3を決定します。ふるってご参加ください。



「賛成も反対もあるんです」と講師の名畑さん

「長者町から長寿町へ」 中心市街地活性化の新しい風

近江環人 地域再生学座 公開特別講義&
NPO法人環人ネット 総会記念フォーラム

レポート：会員 小島 なぎさ



主人公感覚を引き出すヒントが見つかったパンフレット



「私の地域ではどうかな」思いが深まる受講生

◆まなざし
第1部は近江環人の活動報告。地域コミュニティ再生助成事業である近江ひまわりプロジェクト、関わりプロジェクト、関蝉丸神社にまつわる「暮らしの思い出」写真企画展、そして県の受託事業である美の滋賀語り部マイスターの活動が報告された。報告の最後に第2部の講師である名畑恵さんに3つ

8月8日(土) 八日市商工会議所にて、近江環人地域再生学座公開特別講義&NPO法人環人ネット総会記念フォーラムが開催された。環人ネット会員や行政、一般、学生などおよそ30名が参加した。



の活動報告に対するコメントをいただいた。名畑さんは「まると循環」人・地域間・エネルギー・SNS情報」などと言ったも情緒と記憶」「ざんしんでオリジナルメディア 徹底したフィールドワークから」「しんじるべきはその土地の人の美意識」とし、それぞれの頭文字をとってまちづくりをする上で「まなざし」が大切であるとまとめた。

第2部は、中心市街地活性化やまちづくり活動における「新しい風」＝若手による取り組み・世代交代をテーマに、『長者町から長寿町へ…中心市街地活性化の新しい風』と称し近江環人地域再生学座公開特別講義が開催された。講師である名畑恵さんは、日本におけるまちづくり活動の第一人者である延藤安弘先生の愛弟子で、NPO法人まちの縁側育み隊の理事、そして名古屋の中心市街地「長者町」(錦二丁目)における、地元・行政・学生・専門家等様々な人が集まる「錦二丁目まちの会所」のチーフとして地区まち育てのコーディネーターを行っている。

◆カルタ

名畑さんの講義では、長者町の2004年活動開始当初から現在に至るまでのまちづくり活動の変遷と、いかに多くの人を巻き込み活動を行っていくかのポイントが話された。元々繊維街問屋であった長者町は、通り毎に町内会、織物協同組合が組織されており全体の地区としてはバラバラであった。そうした背景から、活動は各町内会、組合のつながりや、まちとしてのまとまりをつくる仕組みづくりから始まった。

町内会長や大手ゼネコン、地権者のみならず、徐々にお母さんや子どもといった人々にワークショップや勉強会に参加してもらった。そういった場での発言をそのまま丁寧に記録しマスタープランに反映させたり、その場での思いをカルタにするなどの仕掛けをし、1人1人とまちづくり活動の接点をつくりながら「いろいろな人の主人公感覚」を引き出し、活動を展開していった。今では住民以外に長者町のファンができ、ファン主催のイベントも行われるようになった。

◆新しい風

名畑さんの活動は、1人1人と向き合い、その人の思いを大切にしながら丁寧にまちづくりを進めていく、まさに「人を育てまちを育む」活動である。一部の人たちで展開されがちなまちづくりは、その少数の人たちでまちの方向性が決められると同時に、その人たちに責任が集中する。様々な価値観を取り入れつつ、まちづくりの主体を増やす仕組みづくりは、まちづくり活動の「新しい風」のあり方を象徴する取り組みだった。今後は、長者町のような仕組みが、各地でのまちづくり活動に展開されていくものと思われる。

知行合一 小島ななこ

●こじま なぎさ 滋賀県立大学地域文化学科卒。現在滋賀県彦根市の一般社団法人まちづくり石寺の事務局と、宮城県南三陸町にあるNPO法人田の浦ファンクラブの事務局を兼務しながら、まちづくり活動を行っている。仕事の傍ら社会福祉士の資格を勉強中。

なでしこファーマーズ



滋賀県において農業をはじめ関連事業などに関わる個人や事業者の方々をつなぎ、新たな活動や事業へと広がるきっかけを育むネットワーク組織「なでしこファーマーズ」。

今年度もイベント開催を通じて情報交換やノウハウ交換を行い、次世代育成・新たな事業へのつながりづくりを目指します。

■申込み・問合せ先

なでしこファーマーズ事務局
滋賀県長浜市川道町759-3
新江州(株)循環型社会システム研究所内
TEL：090-4114-3239 (北井)
FAX：0749-72-8681
<https://www.facebook.com/nadeshiko.farmer.shiga>

～食hana咲かそう!～ 食について話す交流会

- 第7回「安土の米粉を使ったお菓子」
／ショップ マドレ
開催日程：2015年9月30日(水)
- 第8回「高島市の発酵食でまちづくり」
／美食倶楽部
開催日程：2015年11月28日(土)
- 第9回「伝統野菜とプロデュースカ」
／fm craic、Team coccori
開催日程：2016年1月下旬

※イベント詳細はfacebookページでご案内します

第5回よばれやんせ湖北フォーラム

湖北の食材と郷土料理を食しながら、生産者と消費者がつながる交流会「よばれやんせ湖北」。今年は“循環型社会における生産者と消費者のあり方”をテーマに、みんなで思いっきり語り合います。



■申込み・問合せ先

ウディバル余呉 (株)口ハス余呉
支配人 前川和彦
滋賀県長浜市余呉町中之郷260
TEL：0749-86-3821
FAX：0749-86-3890
Mail：wp-yogo@zc.ztv.ne.jp

- 日時/2015年11月29日(日)
13:00～16:00
- 場所/長浜バイオ大学
(滋賀県長浜市田村町1266)
- 内容/
 ● 基調講演：循環型社会システム代表 森建司
演題「地産地消で地域おこし～まず食から～」
 ● 生産者と消費者のパネルディスカッション
 ● 1ドリンクお菓子付き 500円
 ● 生産者によるマルシェも予定
- 主催/よばれやんせ湖北実行委員会

※予告なく変更する場合があります。



美の滋賀 ふるさと 深い学び塾

～聞いて、見て、ふれて、食べて「ほんまもん」を感じ・考える旅～

弊社でご紹介していた「美の滋賀・語り部マイスター」が、新たなスタートを切りました。NPO環人ネットが主体となり「美の滋賀ふるさと深い学び塾」と名前を変え、滋賀のフィールドに出向き、そこで活躍されている人の話を聞く講座を開催します。フィールド見学を通して滋賀の「ほんまもん」を感じる事業を実施してい

きます。本事業は、滋賀県の「地域の元気創造・暮らしアート事業」の採択を受けて実施します。

■申込み・問合せ先
特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク(NPO環人ネット)
TEL: 090-4497-4074(本田)
FAX: 0740-27-0093
Mail: kaorm.nm@gmail.com

■美の滋賀ふるさと深い学び塾(開催予定) ※予告なく変更する場合があります。

●第1回《風景とくらし》

日時: 2015年10月18日(日)
場所: JRマキノ駅前物産会館
講師: 濱崎一志氏(滋賀県立大学副理事長)
レポーター: 小野千穂さん

●第2回《信仰とくらし》

日時: 2015年11月15日(日)
場所: 長浜市高月町
講師: 井上ひろみ氏(滋賀県立琵琶湖文化館)
レポーター: ケイミー板山きよ美さん

●第3回《水とくらし》

日時: 2015年12月6日(日)
場所: 大津市
講師: 樋爪修氏(大津市歴史博物館館長)
レポーター: 鈴木みちるさん

●第4回《文化とくらし》

日時: 2016年1月31日(日)
場所: 近江八幡市沖島
講師: 大沼芳幸氏(滋賀県文化財保護協会)
レポーター: 宇野ひとみさん

雨森芳洲と朝鮮通信使

～未来を照らす交流の遺産～

- 記念シンポジウム 日時: 2015年10月17日(土) 13:30～16:30
場所: 長浜文化芸術会館ホール
- 企画展 日時: 2015年10月18日(日)まで
場所: 長浜市長浜城歴史博物館
日時: 2015年10月25日(日)まで
場所: 高月観音の里歴史民俗資料館

■問合せ先
高月観音の里歴史民俗資料館
TEL: 0749-85-2273

ドイツフォレスター シンポジウム

～ドイツの林業は、
日本で活かせるか～

- 日時: 2015年10月22日(木) 13:00～16:30
- 場所: ヤンマーミュージアム(長浜市三和町)
- 主催: 長浜市森林整備課

■申込み・問合せ先
長浜市産業経済部森林整備課
TEL: 0749-65-6526
FAX: 0749-65-1602
Mail: shinrin@city.nagahama.lg.jp

長浜伝統産業館「和の仕事」オープン



2015年8月2日、長浜市街地の大手門通りに、長浜地域の繊維産業をPRする「長浜伝統産業館『和の仕事』」がオープンしました。地場産業の復興と中心市街地の活性化を目指し、「浜ちりめん」や「ビロード」でつくった着物・小物、実際に使用されていた「ビロード織機」などが展示されています。M・O・H通信の紹介コーナーもあります。

同館は繊維産業の発展を願う人達が発起人となり、運営は繊維製造卸「北川義」が手掛けています。弊誌代表の森建司も



発起人として関わり「地元の伝統文化を守り、新産業が生まれる拠点にしたい」と想いを述べました。

近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



■長浜伝統産業館「和の仕事」

滋賀県長浜市大宮町7-1

入館無料、10:00～17:00（火曜休館）

TEL：0749-62-5228

<http://kitagawayoshi.co.jp/news/20150802/>

西武大津店 開店39周年イベント えがおのりがおえ



開店39周年を迎えた西武大津店で、段ボールに「笑顔の似顔絵」を描いてキャンパスをいっぱいにするイベントが開催されました。期間中は多くの親子連れが訪れ、子どもたちは丸く切り取られた段ボールに笑顔あふれる絵を描いて楽しみ



ました。この段ボールは新江州株式会社が提供させていただきました！

■西武大津店

滋賀県大津市におの浜2-3-1

<https://www.sogo-seibu.jp/otsu/>



加藤さん家の

にこやか

©サトウチュウコ



綾さんちのオープンハウス開催!

滋賀県主催・低炭素な『まちと建物』コンテストにおいて、碧いびわ湖のコーディネートで建てられた草津市の綾さん宅が優秀賞を受賞しました。ぜひ、ご自身のこれからの住まいづくりのヒントを見つけにいらしてください。

●日時: 2015年10月24日(土)

※詳しくは「碧いびわ湖 オープンハウス」でご検索ください。

■NPO碧いびわ湖 (平日9:00~17:00)

TEL: 0748-46-4551 FAX: 0748-46-4550

Mail: info@aoibiwako.org

担当 村上 悟

こんな見つけた

発見! 牛になった「とび太くん」

東近江市にある池田牧場で見つけました。牛柄を身にまとった、飛び出し坊やの「とび太くん」です。角や耳が愛らしい!?



マンガ作家紹介

本誌の左下と右下をバラバラして下さい。何かが動きます。若手作家の力作です。

サトウチュウコ

✍

●郷内ユウコ

(左ページ・4コマ)

色鉛筆が好きで、マンガやイラストなどを作成している。

「トリックオアトリート」

うとうとしているフクロウにもハロウィンがやってきたようです。

●恵岳

(右ページ)

手拭いの素晴らしさを伝えてます
<http://www.jikan-style.net>

「食欲の秋」

とは言いますが…食べ過ぎにはご注意ください。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心か思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会通念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

shingoshu.co.jp

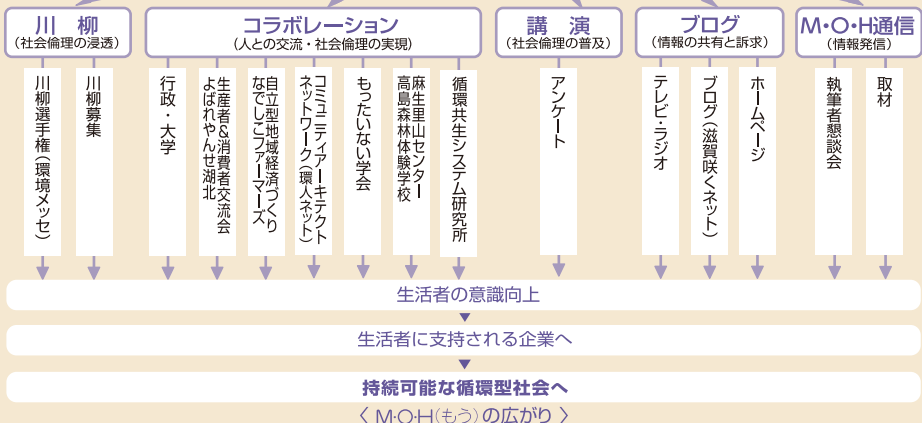
代表:森 建司

担当:辻村 琴美

上岡 瞳

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかずさま・ほどほどに)



読者の声

- ★48号は特に表紙がきれいですね。涼しさも感じられ、ずっと見ていたぐらいいです。次号も期待しています。
大津市 松田千香
- ★48号の衣の特集、以前京都の西陣に長く通っていたこともあり、とても興味深く拝読しました。
茅ヶ崎市 飯田辰彦
- ★上原酒造さん&藍染職人さんの伝統継承、個人的に思い入れのある記事です。なんか嬉しくなりました☆
草津市 高屋佳典
- ★毎回楽しみに拝読させて頂いています。「ピロード」、何と懐かしい言葉でしょう。若い頃大変お世話になりましたからね…仕上がり行程で針金が織り込まれているとは知りませんでした。唯々驚きです。
古河市 菅野ハルヨ
- ★「しがのえもん」楽しく拝読しています。「滋賀ファン」の私。今、歩き仲間と「びわ湖108霊場」を巡っていますが、その都度「しがのえもん」を参考にさせて頂いて、立ち寄り学び、あるいは手に取り、口してみたいと思っています。
京都市 長宗清司
- ★48号、反応が多くあり、たくさんの方から「見たよ」と声をかけて頂いています。米原市 近藤洋子
- ★「へにふつき」をご紹介下さりありがとうございます。お茶農家さんもきっと喜

ぶと思います。今後多くの方にこの素敵な冊子を紹介していきたいと思えます。

大和市 嶋田千夫美

★親しい友人からM・O・H通信48号を頂きました。拙著を紹介下さり心よりお礼申し上げます。
東近江市 増田洲明

★48号、今関さんの文章に特に心打たれました。以前、畑裕子先生のすばらしいお人柄に触れる機会がありましたので…今関さんのお話を読んで私の知らない畑先生の一面を知り、先生の顔やお声を思い出して、あらためて寂しさがじんわりと胸に迫りました。
大津市 長山真由美

★畑さんと語り合えなくなったので、自分の考えを相対化することを意識的にやらないといけないな…と感じています。やはり畑さんは大事な人でした。
守山市 今関信子

★尽くして求めず、尽くされて忘れず。滋賀県の魅力を高めるため、色々考えることが私の仕事事です。
大津市 京極卓也

M・O・Hせりゆつ

- ♪もったいない ダイエットより 食資源
- ♪もったいない 親父の小言に 愛がある
- ♪瀬戸市 丸岡正彦
- ♪M・O・H「はとほと」に すぐ共感♡
- ♪敦賀市 中村大

《次号予定》

2015年12月発行予定

■特集：地元資源を活かして「食」

- M・O・Hなママ／「みんなが寄り添い輝いて」(株)わくわく共育ステーション 大和幸子
 - 対談／「自然に学ぶ食文化」たねやグループCEO山本昌仁+森建司
 - 座談会／「いただきますから」よばれやんせ湖北+おにぎりにぎにぎの会+α
 - 寄稿／「おいしく 楽しく 美しく」京都府立大学 中村貴子
 - レポート／なでしこファーマーズ、美の滋賀深い学び塾
 - 連載／通常通り
- ※敬称略、予告なく変更いたします

編集光記

- 秋です。さわやかな季節を迎えました。我が家はドタバタ。枯れていく人生の中にいろんなドラマがあるんです。秋の夜長にゆるりとお話ししましょう。……こと
- 引越をしました。お世話になった町家を磨き、最後のあいさつ。家や人に感謝です。あっという間でしたが貴重な経験ができました。……ひとみ
- 古さを上手に活かした「マンマ・ミーア」をみて、ザ・昭和！な我が家でもステキ空間になるかも妄想中。……あや
- お盆明けからバタバタして、気づけば秋。今年は、過ぎ行く夏に憂愁を感じる余裕がありませんでした。……なお

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。ご希望の方は、下記の必要事項をご記入の上、FAX、郵送、メールのいずれかでお申し込みください。M・O・H通信をお送りし

ます。あなたの活動やM・O・H通信へのご意見もお聞かせください。

なお、ご不要になった場合は、お名前・住所をご記入の上、お知らせください。

《M・O・H通信》申込書

M・O・H通信を

送付してください ()

送付を止めてください ()

FAX 0749-72-8681

メール ueoka@shingoshu.co.jp

※どちらかに○を記入して下さい

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
所属			
住所	〒		
電話		FAX	
M・O・H通信へのメッセージ、M・O・Hせんりゅうをお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.49(通巻50号) 2015年9月30日発行 発行部数6,300部

●編集・発行/新江州(株)

経営企画部
循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局
代表 森建司
編集長 辻村 琴美
編集 上岡 瞳
取材 山崎 彩
松田 千春
デザイン 伊達デザイン室
写真 辻村写真事務所
平田 尚加
表紙 辻村写真事務所
印刷 クリエイトカブカン
ホームページ クリエイトカブカン

●執筆者懇談会

内藤 正明	木村 至宏
嘉田 由紀子	小林 隆彰
海東 英和	山口 美知子
今関 信子	岡部 達平
末永 國紀	豊田 一美
花田 眞理子	熊谷 英彦
弘中 史子	藤井 絢子
山崎 隆	仁連 孝昭
三山 元暎	今森 光彦
加藤 みゆき	川戸 良幸
清水 安治	鶴飼 修
森 孝之	フライアンウリアムズ
堀越 昌子	中川 善雄
結城 美枝子	古田 紀子
井上 昌幸	
徳永 拓美	(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県	滋賀県立大学
琵琶湖環境科学センター	近江環人地域再生学座
もったいない学会	環人ネット
循環共生社会システム研究所	野洲生活学校
麻生里山センター	長浜バイオビジネス創出研究会 (順不同)

●支援

新江州(株)
〒526-0111 滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>



M・O・H図書館

検索



※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。